

令和 2 年度 事業報告書

I . 松山紅梅会・法人関連

【令和 2 年度まとめ】

全事業において新型コロナウイルスに翻弄された 1 年であった。

法人として最大の目標としていた「ごちゃまぜ福祉」の拠点となる「いつもの - ISTUMONO - 」は令和 2 年 10 月 26 日に「特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト」「デイサービス梅本の里」がオープンし、地域での役割の第 1 歩を踏み出したが、同時開設を目指した「ごちゃまぜ福祉」の根幹となる障がい事業でのレストラン、銭湯の開設はコロナ渦においては次年度に延期せざるを得ず、基本計画の抜本的見直しを余儀なくされた。

又、新規事業における人財計画においても、新型コロナウイルス感染状況が影響し、介護事業人財の動きが鈍く、計画どおりの人財確保に至らず「梅本の里サテライト・ショートステイ」事業の開設を 12 月 15 日まで遅らせなければならなかった。

人財確保計画と育成については令和 2 年度においても法人の柱となる 4 つの委員会が大きな役割を果たす計画であったが、感染予防対策から会議や委員会で職員を招集することが思うようにできず、各委員会満足な協議ができなかったこともあり、十分な人財確保と育成活動に繋げることができなかった。

特に人財確保で重要な役割を果たす P R ・採用委員会は、採用に関する面接会や説明会が軒並み中止となるなどアピールする場が大幅に減少し、苦戦を強いられた。

又、職員の介護知識と技術の向上を目指し、3 年目を迎えた内部キャリアアップ制度「梅星」制度についても、開催を前提とした協議を重ねたが、密接を必要とする技術試験の開催は難しく、年度内開催を断念した。

当然、収支においても新規利用の見合わせや慎重な利用を図らなければならない環境であったことから、全事業において収入面で大きな影響を受けている。更に新規事業計画の見直しを図らなければならない状況も重なり、非常に厳しい決算状況となっている。

これらの環境において開設以来、法人の基盤としている地域に根差した施設の活動も、施設年間行事が全て中止となったことや、地域行事のほとんどが自粛されたことで、その役割を全く果たせない 1 年ともなった。

これまでの施設活動や生活に大きな変化が発生し、プライベートの活動までが厳しく制限されることとなった職員においては、これまで以上のストレスがかかる環境の中で入居者や利用者の安全な生活を 1 年間守ってくれたことに感謝したい。

1. 事業概要

(1) 法人名

社会福祉法人 松山紅梅会

(2) 所在地

松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 法人の事業

第1種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
軽費老人ホーム(ケアハウス)	ケアハウス 梅本の里	30名	平成 6年 4月 1日
介護老人福祉施設	梅本の里	59名	平成 7年 4月 1日
	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	30名	平成 26年 8月 23日
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	29名	令和 2年 10月 26日

第2種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
通所介護事業	デイサービス 梅本の里	55名	平成 6年 4月 1日
	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	45名	平成 23年 12月 26日
短期入所生活介護事業	短期入所生活介護 梅本の里	11名	平成 7年 4月 1日
	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	10名	平成 26年 12月 26日
	梅本の里サテライト・ ショートステイ	10名	令和 2年 12月 15日
在宅介護支援センター	梅本の里	—	平成 7年 4月 1日
訪問介護事業	訪問介護事業 梅本の里	—	平成 7年 10月 1日
認知症対応型共同生活介護事業	グループホーム 梅本の里	18名	平成 13年 5月 15日

公益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
指定居宅介護支援事業所 梅本の里	居宅介護支援に関する事業	平成11年 9月13日
松山市高齢者生き生き支援事業	生きがいデイ・家事援助	平成12年 4月 1日
事業所内託児所梅本の里・小梅	事業所内託児所	平成23年12月26日

収益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
—	太陽光発電の売電事業	平成25年 4月 1日

2. 役員の構成

理事	定数	6人(現員 6人、欠員 0人)
監事	定数	2人(現員 2人、欠員 0人)
評議員	定数	7人(現員 7人、欠員 0人)

3. 理事名簿

令和3年3月31日現在

	区分	氏名	職歴(公職含む)	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	理事長	亀本 堯	元愛媛県社会福祉協議会 事務局長	○				
2	理事	藤久 敬子	前梅本の里・小梅施設長	○				
3	理事	杉本 太一	高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長			○		
4	理事	門屋 征洋	前公益社団法人認知症の人 と家族の会愛媛県支部代表	○				
5	理事	渡部 誠	高齢者総合福祉施設 梅本の里事務局長					○
6	理事	青木 良一	小野地区社会福祉協議会 会長		○			

4. 監事名簿

	区分	氏名	職歴(公職含む)	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	監事	八木 繁明	元連合愛媛事務局長					○
2	監事	秋川 裕恵	秋川裕恵税理士事務所					○

5. 評議員名簿

	区分	氏名	職歴（公職含む）	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設 長	その 他	財務
1	評議員	立川 百恵	愛媛県生活協同組合連合会顧問				○	
2	評議員	野村 和男	元旧株式会社メルファム四国支社				○	
3	評議員	渡部 克彦	松山市議会議員		○			
4	評議員	宮内 敏浩	元小野地区社会福祉協議会会長		○			
5	評議員	谷 向 知	愛媛大学大学院医学系研究科教授	○				
6	評議員	仙波 修	保険調査員		○			
7	評議員	松岡 司志	日本ALS協会				○	

6. 理事会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
R2. 6. 5	6/6	1. 令和元年度事業報告に関する件 2. 令和元年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 3. 役員選任（理事）候補者に関する件 4. 令和元年度定時評議員会の開催に関する件	1. 書面決議にて原案通り可決 2. 書面決議にて原案通り可決 3. 書面決議にて原案通り可決 4. 書面決議にて原案通り可決
R2. 8. 7	5/6	1. 新規事業名称に関する件 2. （仮称）特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト備品業者の選定に関する件 3. （仮称）特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト追加工事に関する件	1. 平井に拠点を置くごちやまぜ福祉の場の総称を『いつもの - itumono』とし、小規模特養の名称を『特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト』、短期入所生活介護の名称を『梅本の里サテライト・ショートステイ』、移転するデイサービスについては『デイサービス梅本の里』とすることで可決 2. 業者選定方法について原案通りに可決 3. 原案通り可決
R2. 10. 7	5/6	1. 定款変更（案）に関する件 2. 各種規程改定（案）に関する件 3. デイサービス梅本の里所長人事に関する件 4. 評議員会開催に関する件	1. 原案通り可決 2. 原案通り可決 3. 原案通りに、所長を佐伯誠治にすることで可決 4. 原案通り可決
R3. 1. 12	5/6	1. 人事問題に関する件	1. 処分については地域の方・理事等のご意見をいただき、最終判断は理事長に一任で可決
R3. 3. 29	4/6	1. 令和２年度第１回補正予算（案）に関する件 2. 令和３年度事業計画（案）に関する件 3. 令和３年度当初予算（案）に関する件 4. 評議員選任・解任委員の選任に関する件 5. 定款変更（案）に関する件 6. 給与規程改定（案）に関する件 7. 外国人留学生奨学金制度による受け入れ並びに奨学金貸付規程（案）に関する件 8. 評議員会開催に関する件	1. 原案通り可決 2. 原案通り可決 3. 原案通り可決 4. 山本万喜雄氏、松本等氏、野本浩二副施設長を再任とし可決 5. 原案通り可決 6. 原案通り可決 7. 原案通り可決 8. 原案通り可決

7. 評議員会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
R2. 6. 20	7/7	1. 令和元年度事業報告に関する件 2. 令和元年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 3. 役員選任（理事）に関する件	1. 書面決議にて原案通り可決 2. 書面決議にて原案通り可決 3. 初年決議にて新たな理事として青木良一氏を承認
R2. 10. 12	7/7	1. 定款変更（案）に関する件	1. 書面決議にて可決

8. 職員の状況

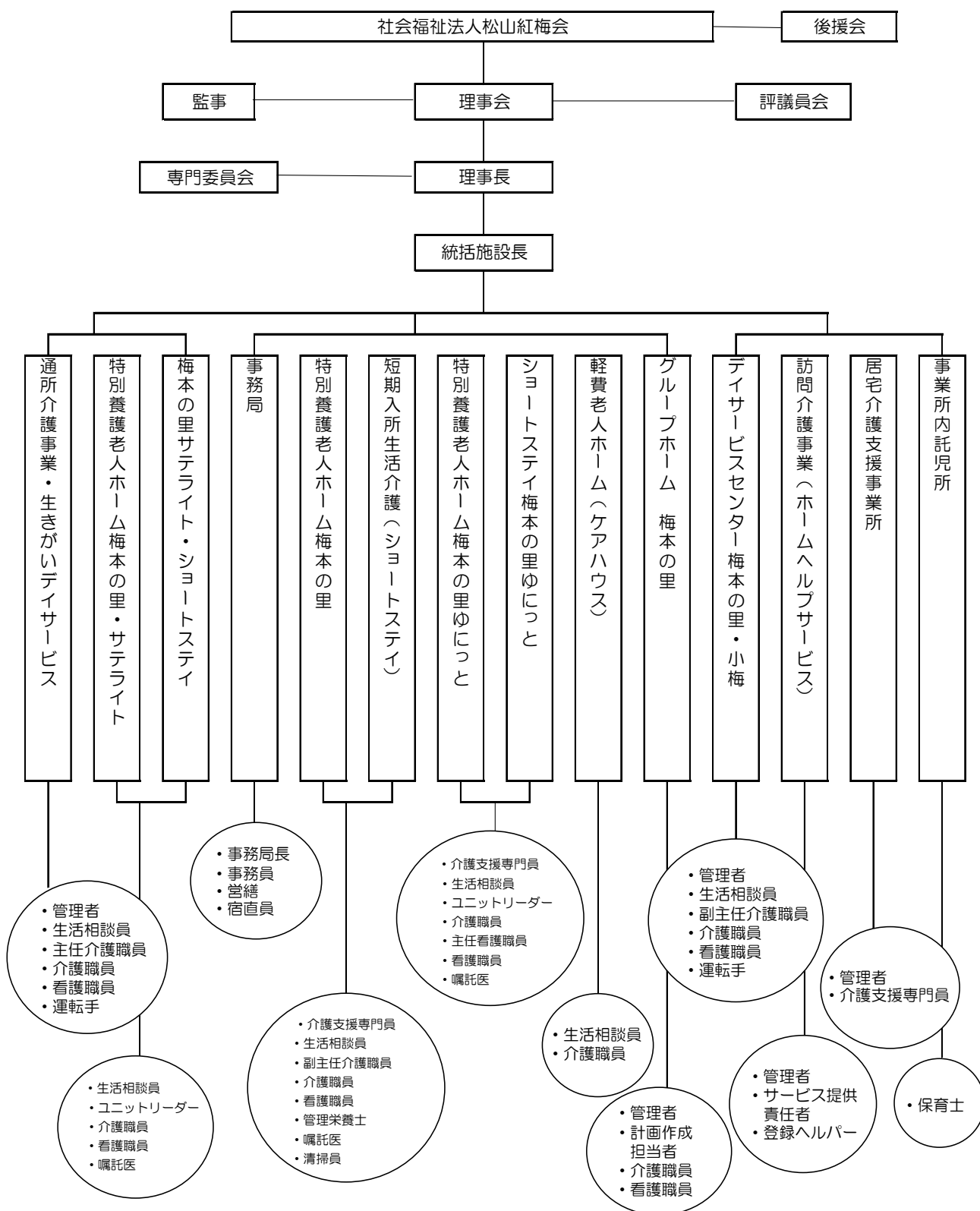
(令和3年3月31日現在)

		管 理 者	事 務 員	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	計 画 作 成 担 当 者	サ ー ビ ス 提 供 責 任 者	そ の 他	合 計
軽費老人ホーム (ケアハウス)	実 人 数	1 兼 務				1	1 (1)					3 (1)
特別養護老人ホーム (梅本の里)	実 人 数	1 兼 務	4	1 兼 務	1 兼 務	1	16 (5)	3			2 (5)	29 (10)
地域密着型介護老人 福祉施設入所者 生活介護 (梅本の里・サテライト)	実 人 数	1 兼 務	(2)		1 兼 務	1	11 (3)	1 (2)				15 (7)
特別養護老人ホーム (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼 務			1	1	11 (2)	3				17 (2)
通所介護事業 (梅本の里) 生きがいデイサービス事業	実 人 数	1				1	1 (7)	(3)			2 (3)	5 (13)
通所介護事業 (梅本の里・小梅)	実 人 数	1	(1)			(1)	2 (10)	(5)			(6)	3 (23)
短期入所生活介護 (梅本の里)	実 人 数	1 兼 務					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里・サテライト)	実 人 数	1 兼 務					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼 務					4 (1)					5 (1)
訪問介護事業	実 人 数	1					(14)			3		4 (14)
居宅介護支援事業所	実 人 数	1			4							5
認知症対応型 共同生活介護事業 (グループホーム)	実 人 数	1					7 (4)		2			10 (4)
事業所内託児所	実 人 数										(5)	(5)
高齢者住宅与力団地	実 人 数										(1)	(1)
合 計	実 人 数	12	4 (3)	1	7	5 (1)	61 (47)	7 (10)	2	3	4 (20)	106 (81)

※ () 書きは非常勤職員

9. 運営組織体制

(令和3年3月31日現在)



10. 避難訓練

【第1回】

(1) 実施日時：令和2年11月18日（水）14時00分より

(2) 実施内容：14時10分、ケアハウス1階多目的室より火の手が上がっているのをケアハウス職員が発見。直ちにケアハウス他職員に連絡し、消火器により初期消火に努めるが延焼。知らせを聞いた他職員が119番通報並びに他部署へ連絡し、各部署館内放送にて避難誘導開始。

(3) 実施規模

参加人数：全出勤職員及び特養、ゆにっと特養、ケアハウス、グループホーム入居者

訓練方法：＜避難訓練＞感染症予防のため、避難経路及び避難場所は各部署で完結、他部署との接触はしない方法で実施。

(4) 講評・反省

火災発見部署からの連絡にタイムラグが生じるため、一番最後に連絡を受けたゆにっと特養の避難誘導がかなり遅くなった。現状においては順次内線で連絡する方法しかなく、火災発見後の各部署への連絡方法について課題を残す結果となった。また、新型コロナウイルス感染予防のため避難誘導を各部署完結としたため、避難を終えた部署からの応援ができなかったことも最終避難誘導に時間を要した要因となった。火災発見部署については真剣に訓練に取り組む姿勢が見受けられたが、他部署（特養）については少し緊張感が欠けたところもあった。

【第2回】

(1) 実施日時：令和2年12月28日（月）14時00分より（夜間想定）

(2) 実施内容：14時00分、特養厨房付近より火の手が上がっているのを特養夜勤職員が発見。直ちに他の職員に連絡するとともに初期消火に努めるが、延焼。連絡を受けた他の夜勤職員が119番通報並びに他部署へ連絡し、各部署館内放送にて避難誘導開始。

(3) 実施規模

参加人数：夜勤職員（特養3名、ゆにっと2名、グループホーム2名）、宿直職員（1名）

訓練方法：＜避難訓練＞感染症予防のため、避難経路及び避難場所は各部署で完結、他部署との接触はしない方法で実施。

(4) 講評・反省：

夜間勤務職員のみでの避難誘導には時間を有するが、訓練と分かっていて職員も行動するので、実際はもっと時間を要することが考えられる。特に特養については移動が困難な状態の高齢者の訓練参加を行っていないことから、災害が起こった場合、訓練で要した時間では全員の避難は困難であることが予想される。又、命を最優先とする避難であるため入居者の過ごしている場所によって、避難場所・避難方法を変えていく必要があると思われる。

1 1. 協力医療機関

(1) 嘱託医師等の状況

医 師 名	中城 敏	中城 有喜	永山 雄一
診 療 機 関 名	砥部病院	砥部病院	永山内科・循環器内科
診 療 科 目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ	内科・消化器科 循環器科
勤 務 の 形 態	非常勤 (隔週火曜日午後回診)	非常勤 (隔週火曜日午後回診)	非常勤 (隔週木曜日午後回診)

(2) 契約病院

病 院 名	医療法人 誠志会 砥部病院
所 在 地	伊予郡砥部町麻生 4 0 - 1
院 長 名	中城 敏
診 療 科 目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ

病 院 名	医療法人社団 永山内科・循環器内科
所 在 地	松山市北梅本町 6 6 6 - 2
院 長 名	永山 晋也
診 療 科 目	内科・消化器科・循環器科

(3) 協力病院

病院名	院長名	所在地	診療科目
中川病院	中 川 泰 範	松山市南梅本町甲 58	内科・外科
石崎歯科医院	石 崎 一 成	松山市湊町 2 丁目 2-1	歯 科
永山歯科	永 山 晃 之	松山市北梅本町 666-1	歯 科
生島眼科	生 島 操	東温市野田 2 丁目 103-3	眼 科
宮内皮膚科クリニック	宮 内 俊 次	松山市北梅本町甲 899-4	皮膚科

12. 加入団体一覧

団 体 名	会長名	事務局所在地	年会費	所属
中予地区老人福祉施設協議会	木戸 敏満	松山市水泥町 405 番地 1 特別養護老人ホーム ていれぎ荘内 TEL (089) 975-5558	20,000 円	特養
愛媛県老人福祉施設協議会	菅原 哲雄	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会 地域福祉部福祉人材課内 TEL (089) 921-8566	10,000 円	ケア
			20,000 円	通所
			20,000 円	小梅
			124,800 円	特養
全国老人福祉施設協議会	石川 憲	東京都千代田区平河町 2-7-1 塩崎ビル 2 階 TEL (03) 5211-7700	20,000 円	通所
			20,000 円	小梅
			99,500 円	特養
愛媛県ホームヘルパー協議会	笠松美智子	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会地域福祉部内 TEL (089) 921-8912	15,000 円	訪介
愛媛県地域密着型サービス協会	河本 圭仁	松山市土居田町 621-1 TEL (089) 974-1213	20,000 円	GH
松山市社会福祉協議会	村上 博	松山市若草町 8 番地 2 松山市総合福祉センター内 TEL (089) 941-4122	5,000 円	特養
小野地区社会福祉協議会	青木 良一	松山市水泥町 972-1 ふれあいサロン小野 TEL (089) 976-1200	1,000 円	特養
愛媛県中小企業家同友会	田中 正志 米田 順哉	松山市三番町 1 丁目 11 番 10 号 Issei301 号室 TEL (089) 948-9920	84,000 円	特養
一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構	服部 正	松山市湊町三丁目 4 番地 6 松山銀天街 GET! 4 階 TEL (089) 913-8686	30,000 円	本部
松山市高齢者福祉連絡会	渡部 浩二	松山市小川甲 214 番 1 TEL (089) 994-7787	10,000 円	特養

計 10 団体 499,300 円

13. 広告協賛一覧

日付	内容	金額
R2.7.27	(株)博報社 松山市高齢クラブ 連合会広報誌 第 127 号 賛助掲載料	22,000 円
R2.10.13	葉佐池くらぶ 会報広告掲載料	30,000 円

計 2 件 52,000 円

1 4 . 職 員 研 修 一 覧

	日 時	研 修 名	主 催 / 場 所	参 加 者
1	R2. 7. 14	事例検討会	東温市社会福祉協議会/ 東温市公民館	1
2	R2. 9. 11	事例検討会	地域包括支援センター小野・久米/ 松山リハビリテーション病院 9 階	3
3	R2. 9. 12 ～9. 16	介護フェスタ 2020 Autumn	カイボケセミナー運営事務局/ e-ラーニング	1
4	R2. 9～ R2. 11	新型コロナウイルス感染発生！その時どうする？	愛媛県社会福祉協議会/ e-ラーニング	18
5	R2. 11. 11	合同研修会	中川病院居宅・鷹ノ子病院居宅・ライトケア/ 特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと 3 階	3
6	R2. 11～ R2. 12	第 1 回愛媛県ホームヘルパー オンライン研修	愛媛県ホームヘルパー協議会/ e-ラーニング	18
7	R2. 11. 28	新型コロナウイルス感染症対策	株式会社光洋／オンライン開催	2
8	R2. 12. 27	エンドオブライフ・ケア愛媛 第 8 回学習会 オンライン	一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン会議	1
9	R3. 1. 9	エンドオブライフ・ケア オール四国オンライン	一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン会議	1
10	R3. 2. 4～ R3. 2. 5	給食施設のための栄養講習会	松山市保健所 健康づくり推進課／オンライン 開催	1
11	R3. 2. 9	コロナ禍でも地域で輝く中小企業が日本の未来を拓く	愛媛県中小企業同友会／オンライン開催	4
12	R3. 2. 24	解剖整理と排尿の正常	株式会社光洋／オンライン開催	1
13	R3. 3. 24	精神疾患を抱える方との関わり方・医療との連携について	東温市包括支援センター/ 東温市中央公民館	1

合 計 参 加 研 修 : 1 3 件 参 加 人 数 : 5 5 名

15. ヒヤリ・ハット及び事故発生状況

●ヒヤリ・ハット発生状況 <総件数 255件>

【ヒヤリ内容】

事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
転倒	2	1	0	0	2	0	0	1	0	0	6
転落	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4
滑落	7	2	2	1	1	0	1	0	0	0	14
誤嚥	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
誤薬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
外傷・内傷	13	2	5	0	0	0	0	0	1	0	21
所在不明	0	4	1	2	0	0	2	0	0	0	9
器物破損	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
服薬関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
熱傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
破損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	30	5	13	1	11	1	4	1	2	0	68
与薬	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
内出血	86	8	16	1	7	1	0	0	0	0	119
紛失	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
遅刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
送迎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	148	22	40	6	22	2	7	2	6	0	255

【所 見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
内出血	94	10	14	0	7	1	0	0	0	0	126
外傷	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	5
吸引	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
打撲	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	12	1	4	0	2	0	1	0	4	0	24
異常なし	36	11	16	6	12	1	3	0	0	0	85
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無し	3	0	1	0	0	0	3	2	2	0	11
合計	148	22	40	6	22	2	7	2	6	0	255

【場 所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	70	7	17	3	11	1	1	0	0	0	110
食堂ホール	44	8	0	1	5	1	3	0	0	0	62
廊下	1	0	2	1	0	0	1	0	4	0	9
トイレ	13	1	4	0	2	0	0	0	0	0	20
脱衣場	7	3	3	0	1	0	0	0	0	0	14
浴室	13	3	4	0	2	0	1	0	1	0	24
その他	0	0	10	1	1	0	1	2	1	0	16
施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	148	22	40	6	22	2	7	2	6	0	255

●事故発生状況 総件数 < 4 2 0 件 >

【事故内容】

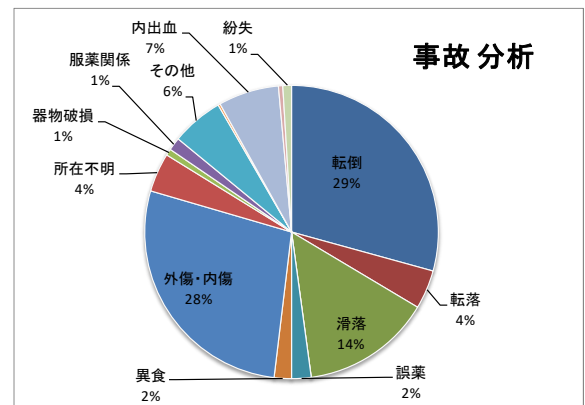
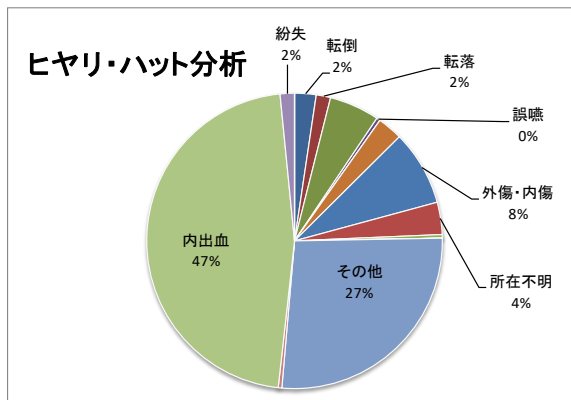
事故内容	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
転倒	37	4	14	9	14	0	24	4	16	1	123
転落	11	1	1	2	3	0	0	0	0	0	18
滑落	28	12	2	1	9	1	6	1	0	0	60
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
誤薬	4	0	0	1	2	1	0	0	1	0	9
異食	4	0	0	0	2	0	0	0	2	0	8
外傷・内傷	69	2	16	1	10	5	11	0	2	0	116
所在不明	1	10	0	1	0	0	0	0	6	0	18
器物破損	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
服薬関係	3	0	0	0	2	1	0	0	0	0	6
その他	14	0	6	0	2	0	1	1	0	0	24
破損	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
内出血	22	0	3	0	2	1	0	0	0	0	28
与薬	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
紛失	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
合計	199	30	43	15	46	9	42	8	27	1	420

【所 見】

所見	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
表皮剥離	41	1	7	0	9	3	6	0	0	0	67
内出血	25	0	6	2	1	1	3	0	0	0	38
外傷	28	0	10	1	7	2	9	0	0	0	57
吸引	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
打撲	8	1	1	4	5	0	0	0	0	0	19
その他	14	3	4	0	3	0	1	4	4	0	33
異常なし	81	24	13	8	21	3	14	0	0	0	164
骨折	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無し	2	1	1	0	0	0	9	4	23	0	40
合計	199	30	43	15	46	9	42	8	27	1	420

【場 所】

場所	特養	ショート	ゆにっと特	ゆにっとショート	サテライト特	サテライトショート	GH	デイ梅本	デイ小梅	訪問介護	合計
居室	76	16	19	10	18	5	22	0	0	0	166
食堂ホール	72	11	10	2	20	3	9	0	12	0	139
廊下	6	0	4	1	1	0	0	0	1	0	13
トイレ	13	0	2	1	1	0	8	2	1	0	28
脱衣場	22	0	4	0	2	0	0	0	0	0	28
浴室	8	0	4	1	1	1	0	0	2	0	17
職員室	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	2	3	0	0	2	0	3	6	5	1	22
施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6
合計	199	30	43	15	46	9	42	8	27	1	420



《特養・ショート》

○ヒヤリハット報告数 特養：148 件 ショート：22 件

○事故報告書 特養：199 件 ショート：30 件

ヒヤリハット・事故報告総数は 399 件（前年度 298 件）となり、前年度より 101 件増となった。令和元年度と比較しての大きな変化は、ヒヤリハットの件数が 170 件（前年度 73 件）となっており、合計 97 件増だった。この要因としては、小さな内出血の発見報告が非常に多く、令和元年度の 39 件に対して、令和 2 年度は 129 件だった。この結果から比べると、内出血が増加したように思われる。しかしその反面、令和 2 年度は皮膚観察を細かく行うことを徹底していく事を行った結果でもあり、小さな内出血も見落とさず、軽度な状態で発見してその後の表皮剥離の防止に繋ぐことができていった結果ともいえる。

令和 2 年度は新規事業開設の影響で職員不足が生じたこともあり、例年以上に事故に対して緊張感を持って業務を行うことができた一年だった。ここ数年の実績からも、職員数が多い方が大きな事故が発生している現象が生じている。

令和 3 年度は職員の増員も行われるため、一人ひとりが油断せず、日々事故に対しての意識を忘れずに事故防止に努めていきたい。

●R2 年度 特養リスクマネジメント委員会開催状況

R2 年 5 月 13 日（水）	R2 年 4 月のヒヤリハット、事故報告の検証 2F のショートステイ利用者がエレベーターに乗って 1F に降りてしまい、所在不明という事が 6 件続いた。（いずれも同じ人物）今後はエレベーターの電源を切り安全対策としていきたい。また、義歯の装着忘れもあったため、繰り返さないように気をつけていきたい。
R2 年 6 月 19 日（金）	R2 年 5 月のヒヤリハット、事故報告の検証 義歯の紛失が 1 件、職員の介助バーのセッティングミスによる滑落が 1 件見られている。いずれもミスによる事故の為、今後の注意が必要である。特に紛失事故に関しては二重チェックを徹底していきたい。
R2 年 7 月 16 日（木）	R2 年 6 月のヒヤリハット、事故報告の検証 4 月に所在不明が続いた方が職員のエレベーターの電源の切り忘れで、1F に降りていたことが 1 件あった。申し送りを徹底して注意していきたい。また、ホールをよく徘徊される男性入居者の転倒が目立ち、4 件確認されている。今後注意していくと同時に、対策を考えていきたい。
R2 年 8 月 21 日（金）	R2 年 7 月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は発生していないが、利用者自身がベッドや車イスに移乗する際に転倒及び滑落している。骨折等には至っていないが、今後未然に防げるように見守りを強化していきたい。
R2 年 9 月 15 日（火）	R2 年 8 月のヒヤリハット、事故報告の検証 2 件の服薬に関する事故が発生。内容は服薬時間のミスと服薬忘れだった。共に大事には至っていないが、いずれも同じ利用者に発生した事故だったため続かないよう気をつけていきたい。他は、夜間に後頭

	部が裂傷する事故が 1 件発生している。待機の看護師により止血処置は行えたが、今後繰り返さないように気をつけていきたい。
R2 年 10 月 12 日 (月)	R2 年 9 月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は発生していなが、移乗中にバルンカテーテルのハルンバックの接続部分が外れてしまう事故が 1 件発生している。すぐに看護師により対応できているが、移乗時の確認を怠らないようにしていきたい。
R2 年 11 月 20 日 (金)	R2 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は発生していない。ヒヤリ・事故報告を出す職員が同じで偏ってきているため、全職員が気づいて出せるような雰囲気にしていきたい。また、報告されたヒヤリ・事故は必ず早期に各職員が確認できるように徹底したい。
R2 年 12 月 16 日 (水)	R2 年 11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 先月検討したこともあり、同じ職員だけからヒヤリ・事故が報告されることが減少した。内出血に関して、広範囲にわたる内出血は事故報告で提出するように徹底した。
R3 年 1 月 15 日 (金)	R2 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 他利用者の薬を服薬してしまう誤薬が 1 件発生。職員が管理していたため確実に防げた事故だった。再度、名前の読み合わせと複数人で確認を行うことを徹底し、再発を防いでいきたい。
R3 年 2 月 15 日 (月)	R3 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 施設内での所在不明が 1 件発生。ショートステイ利用者の男性で、下肢の状態はしっかりされてるため自由に動かれていた。厨房で発見されたため、今後ショートステイの利用時にはエレベーターの電源を切るなどして見守りを強化していきたい。
R3 年 3 月 15 日 (月)	R3 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 特に大きな事故は発生していない。今後も事故防止に努め、情報共有を行っていきたい。職員数が減少おり、大変ではあるが、逆に集中力を高め事故防止を行えている。
R3 年 4 月 19 日 (月)	R3 年 3 月のヒヤリハット、事故報告の検証 利用者間のトラブルが 2 件発生。利用者の一人が他の利用者の居室に入ったことにより口論となり軽く大腿部を叩いたということが起きた。すぐに職員が仲介に入りケガ等に発展することは無かった。コロナの影響で利用者のストレスも溜まっているため、施設内で気分転換できることを改めて考えていき、利用者間のトラブルを防いでいきたい。

《サテライト・サテライトショート》

○ヒヤリ・ハット報告数 サテライト：22件 ショート：2件

○事故報告数 サテライト：46件 ショート：9件

ヒヤリハット報告総数 24 件、事故報告総数 55 件となっている。発生内容は 1 位：転倒・転落・滑落で計 30 件、2 位は内出血や表皮剥離などの外傷で計 26 件、3 位は服薬関係で計 6 件となっている。特に服薬関係の事故が多く発生しているため、全職員が誤薬の危険性を再度認識し業務を行っていく必要がある。また、転倒や滑落事故はなぜ発生してしまったのかの検証を再度行い、安全に生活して頂けるようにしていく必要がある。

●R2 年度 サテライトリスクマネジメント委員会開催状況

R2 年 11 月 20 日（金）	R2 年 10 月～11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 服薬関係が 2 件発生している。朝食後薬の配布忘れの為、再度服薬に関して注意喚起を行い、再発防止に努める。
R2 年 12 月 21 日（月）	R2 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落が計 5 件発生。内、同一人物の事故が 3 件発生。常に転倒リスクが高い利用者の為、見守りが必要だが他利用者の介助を行っており、対応が遅れる等が原因である。その為職員同士での意思疎通をしっかりと図るよう徹底する。
R3 年 1 月 27 日（水）	R3 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 誤薬朝食後薬を服薬しないといけないが間違えて昼食後薬を服薬してしまう。早出職員と伝達ができなかったのと確認作業を怠ったことが原因である。服薬者の氏名といつの薬なのかを声に出しながら確認することの徹底を行い再発防止に努める。
R3 年 2 月 28 日（日）	R3 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落が計 7 件発生。いずれも見守り不足が原因である。見守りが不十分になる場合には隣接するユニットの職員へ声かけを行う等し、常に見守りができる状態にするよう徹底する。
R3 年 3 月 23 日（火）	R3 年 3 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落が計 7 件発生。他利用者対応中に車いすから滑落している等見守り不足によるものが多くみられる。全利用者転倒リスクが高いことを再認識し職員同士の声掛けを行ったり、業務に同行してもらうなどを行い再発防止に努める。

《ゆにっと特養・ゆにっとショート》

○ヒヤリ・ハット報告数 ゆにっと：40 件 ショート： 6 件
○事故報告数 ゆにっと：43 件 ショート：15 件

ヒヤリハット報告総数 46 件、事故報告総数 58 件となっている。発生内容は 1 位：転倒・転落・滑落で計 32 件、2 位：外傷で計 21 件、3 位：内出血で計 20 件となっている。昨年度より総数は減少しているが、転倒や転落などの割合は変わっていない。今年度はショートステイでの転倒が増えている。ショートステイは利用者も変わり、身体状況も毎回違う。現在の利用者の状況を理解し、情報を共有しリスク管理を行う必要がある。外傷や内出血などは介助者が原因になっていることもある。介助者が原因の物は介助方法の見直しを行う事で減少出来る。職員一人ひとりがリスクは常にある事を意識し安心・安全な介助を目指していきたい。

●R2 年度 ゆにっとリスクマネジメント委員会開催状況

R2 年 6 月 27 日（土）	R2 年 4～5 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落 6 件、内出血 8 件、外傷 5 件、所在不明 1 件、誤嚥 1 件、その他 6 件発生。 1 か月の間に同じ入居者が 3 度転倒している。時間に注目すると朝方と夕方に転倒していた。常時歩きまわっているので、常に見守りは必要だが特に朝方と夕方は見守りを強化し、転倒のリスクがある事を考えながら支援していく必要がある。
R2 年 7 月 27 日（月）	R2 年 6 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 5 件、内出血 5 件、その他 3 件発生。 新規の入居者が続けて転倒している。入所時の情報だけでなく、日常生活での動作などから、どのようなリスクがあるか話し合い、見守りの体制や生活環境の整備などを行い安全な生活を送って頂けるよう支援する必要がある。
R2 年 8 月 27 日（木）	R2 年 7 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 5 件、内出血 1 件、外傷 3 件、その他 2 件発生。 夜間在宅酸素を使用されている入居者の電源が入っていないまま朝まで過ごしていた。夜間訪室時や定期の時間を決め、酸素が供給出来ているか確認する。必要な場合は SP0:2 の測定を行い対応する。
R2 年 9 月 21 日（月）	R2 年 8 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 2 件、外傷 2 件、その他 1 件発生。 爪切りや髭剃りの際に誤って皮膚を傷つける事があった。 細心の注意を払っているつもりだが、入居者が急に動いたりすることもある。危険が予見される場合には爪やすりを使用する等、安全方法を選択し、事故防止に努めていく。
R2 年 10 月 19 日（月）	R2 年 9 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落 3 件、外傷 2 件、発生。 ベッドから車いすやポータブルトイレへの移乗の際に転倒していた。

	ベッドセンサーの設定が起き上がりになっていた。体動に再設定すると共に、巡回の回数を増やし見守りを強化していく必要がある。
R2 年 11 月 24 日（火）	R2 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒 2 件、内出血 2 件、外傷 1 件、誤薬 1 件、その他 3 件発生。 眠前薬を違う入居者に誤薬してしまう事故がおこった。原因としては職員の確認不足と 2 人続けて服薬管理しようと複数の薬を持っていた事。服薬介助時は複数人で確認する事や名前を声に出して確認すると共に、複数の薬を同時に持たないなどを心がけ誤薬を防ぐ必要がある。
R2 年 12 月 21 日（月）	R2 年 11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 2 件、外傷 2 件、内出血 2 件、器物破損 1 件、異食 1 件、与薬 1 件、その他 1 件発生。口腔内を確認すると、ペーパータオルを食べていた。今まで異食のない入居者の為、物が近くにあっても大丈夫だと思い込んでいた。常にリスクがある事を意識しておく必要がある。特に認知症状のある利用者はどのような行動をとるか、解らない事もあり様々な心構えが必要である
R3 年 2 月 12 日（金）	R2 年 12 月 R3 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 3 件、内出血 2 件、外傷 2 件、紛失 2 件、その他 4 件発生。 夕食後、口腔ケアをした際に上義歯がない事に気づく。フロアや居室等探すも見つからず。厨房にも確認してもらい、ゴミ箱の中から発見する。今回は入居者がお盆の上にティッシュに丸めて置いていたのに職員が気づかず下膳してしまっただ。お盆の上に置いてあるものは中身を確認し下膳し、紛失防止に努める。
R3 年 3 月 22 日（月）	R3 年 2 月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落 4 件、内出血 1 件、外傷 2 件、所在不明 2 件その他 2 件発生。 今回は入浴介助中に事故が 2 件起きている。1 件は中間浴の浴槽に入ろうとした際、装置に上手く入らず動かなくなった。もう 1 件は脱衣室のベッドから移乗する為、車椅子を取りにいかうとその場を離れた際に入居者が動き転落してしまった。2 件とも職員の注意が不足していた。浴室は様々なリスクがある事を常に意識し、安定な介助を行うよう心掛けていく事が必要である。

《グループホーム》

○ヒヤリ・ハット報告数	7 件
○事故報告数	42 件

ヒヤリ・ハット報告数 7 件（前年度 7 件）、事故報告数 42 件（前年度 69 件）、計 49 件で前年度と比較して 27 件の減となった。

前年度と比較して大幅に減少しているが、前年度の転倒件数が多かった同一利用者の身体状況、認知症状悪化に伴い、自力歩行ができなくなり発生要件が減少したため、と考えられる。

一年間の検証としては、ヒヤリ・ハット報告は主に所在不明のほか義歯破損、事故報告は転倒・滑落・外傷等であった。

全体として、転倒・滑落が 7 割を占め、事故発生場所は、居室内が最も多く、次に食堂ホールであったが、居室トイレ内もほぼ同数みられた。また、事故発生時間は、夜間の夜勤帯が過半数を占めていた。事故が発生した状況は、他の利用者の対応をする為、居室に入っている時や業務をしている時に多発していることから、業務にあたっている際も見守りが不十分とならないように注意し、ひとつひとつ丁寧に対応するよう職員の意識を統一する必要がある。また、新規の入居者の転倒もみられ、入居前のアセスメント不足を痛感することとなった。

職員全体が事故に対する危機感を持って、事故防止対策を共有し、入居者の安心・安全に繋がっていきたい。

《デイサービス》

（デイサービス梅本の里）

○ヒヤリ・ハット報告数	2 件
○事故報告数	8 件

ヒヤリ・ハット報告数 2 件（前年度 3 件）、事故報告数 8 件（前年度 16 件）、計 10 件で前年度と比較して 9 件の減となった。（内訳：転倒・転落 5 件、滑落 1 件、与薬 2 件、不注意 2 件）

一年間の検証として、転倒・転落、滑落が半数以上となっており、事故発生の時間としては午後（13：00～15：00）に起こっていることが多く、レクリエーション中や利用者がトイレに行っている際など職員の見守りが行き届いていない時に起こっていることが分かった。作業をしている際も見守りが不十分にならないように意識しながら対応していく。

また、職員同士が事故に対する危機感を持ちながら、声を掛け合い、利用者の状態把握をしておくことで、事故防止に努めていく。

(デイサービス梅本の里・小梅)

○ヒヤリ・ハット報告数	6 件
○事故報告数	27 件

前年度と比較すると、ひやりはっとは 2 件減っているが事故は 7 件増えている。

事故の中でも転倒・転落は全体の 55%を占め、事故発生場所はリハビリルーム・デイルーム・浴室・玄関とさまざまである。利用者自身が、一日をどのように過ごすかを決定する流れが定着しており、職員は見守り及び必要時介助を行えるようにフロアを見守っているが、行き届いてない事もある。離設に関しても事故報告全体の 22%と高く、同じ利用者の離設も目立つ。また事故の起こった時間でみると、フロア内の職員人数に変動のある休憩時間中の事故が最も多い。

起こった事故に対しては、当日中に検討会で原因や対策を話し合っているが、同利用者の離設や転倒が再発することもあった。

小梅のコンセプトである自己選択「自己決定、自己実現」を損なわないように支援するとともに、フロア内の職員配置、利用者の ADL や行動・心理症状の変化に対し常に観察と情報共有を行い、今後も危機管理対策に努める。

《訪問介護事業》

○ヒヤリ・ハット報告書	0 件
○事故報告書	1 件

ヘルパー訪問中、利用者が一人で庭に出て転倒されていた。翌日家族と受診され、左肩骨折が判明。(松山市に介護保険事故報告)

ご本人は認知症があり、これまでも自宅で転倒、骨折をされたことがあった。普段、ヘルパーが掃除をしている間にご主人と一緒に庭へ出て日向ぼっこをされるのだが、事故時にご主人がベッドで休まれており、お一人での行動だった。日頃の習慣とはいえ、ご本人の状態を考え、見守りをする必要があった。

Ⅱ．介護老人福祉施設事業

「特別養護老人ホーム 梅本の里」

【令和2年度のまとめ】

1. 総評

新規事業の小規模特養梅本の里・サテライトの開設に伴い、大幅な人事異動を想定しながら、これまで培ってきた理念と方針を踏襲し、従来型ならではの特性を発揮するよう、これまで以上に質の高いサービスを提供することを目指したが、新規事業の人財確保が計画通り進まず、更には新規事業開設前後での退職者が相次ぎ、慢性的な人財不足に陥り、通常業務を回すことに終始した1年となった。

又、目標としていたキャリアアップ制度「梅星制度」を用いた介護知識・技術の向上や、職員の働く環境整備による職員のモチベーションの向上については、新型コロナウイルスによる影響を大きく受け、軒並み研修や試験が中止となったことや、感染予防対策に注力することを余儀なくされたことから、ほぼ達成することができなかった。

2. サービス目標

①職員の意識・やりがい向上

外部講師を招いての研修や、外部研修への参加は新型コロナウイルスの影響から全く実施出来なかった。又、法人独自のキャリアアップ制度「梅星制度」も令和2年度の実施が中止となり、職員のスキルアップを図ることができなかった。

むしろ、年度後半は職員減少により業務負担が増大したことや、コロナ禍での介護職員に求められる自粛も影響し、職員が抱えるストレスが増し、モチベーションは減少気味となった。

モチベーションの維持、責任感を養う為に目標としていた中堅職員へのリーダー業務の分担については、万遍なく担当することを実施し、新たな視点をからの発言ができる職員が増えたことから、継続して実施する。

新型コロナウイルスと人財不足の影響から、通常業務を回すことに重点を置かなければならず大変な1年であったが、ベテランから若い職員全員で足りない業務時間を補い一年間を乗り越えたことで、助け合いの精神を養うことができた。

②利用者の満足度向上

目標に掲げていた「安全、安楽、安心な介護」を新型コロナウイルスの影響から実施することが困難であった。

これまで以上に感染予防を重要視した生活の中で、原因不明、若しくは職員の介助中に出来たと思われる内出血、表皮剥離のヒヤリ・事故報告書が増加し、安心・安全な生活の提供に繋がらなかった。

又、コロナ禍において1年間を通してボランティアの来所の中止やレクリエーションや買い物が自粛となった為、入居者もストレスを抱えることが多く、施設生活での満足度向上は図れなかった。

3. 設備・備品の入れ替え

サービス目標に掲げていた加湿器の入れ替えは新型コロナウイルス感染予防対策支援金

を活用し、大型加湿器付空気清浄機 3 台を購入した。

又、福祉用具のスライディングボード、フレックスボードを各 1 台ずつ購入し、介護負担の軽減は図れたが、跳ね上げ式の車椅子の増台には至らず、ノーリフトケアは一部利用者のみの実施に留まった。

軽微な生活空間の環境整備や備品整備については、営繕職員と相談しながら順次作業を進め改善を図ったが、壁の補修、居室やホールの掃除については常時実施することができなかった。

4. 利用率

コロナ禍において新規入居者の受け入れには慎重になり、時間がかかったケースもあったが、目標利用率 97% に対して 96.7% の結果で、ほぼ目標を達成することができた。

(作成者：特別養護老人ホーム梅本の里 相談員 兵藤研也)

1. 事業概要

(1) 施設名 特別養護老人ホーム 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (ゆにっと・GH 併設)

建物 2,996.42 m² (鉄筋コンクリート造り 2 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	856.86 m ²	相談室	1 室	15.52 m ²
静養室	1 室	16.50 m ²	応接室	1 室	13.95 m ²
食堂兼 機能訓練室	3 室	423.46 m ²	洗濯室	1 室	41.40 m ²
浴室	1 室	69.30 m ²	介護材料室	3 室	72.31 m ²
脱衣室	1 室	35.91 m ²	事務室	1 室	98.10 m ²
便所	9 室	78.75 m ²	地域交流センター	1 室	81.90 m ²
医務室	1 室	16.50 m ²	ボランティア室	1 室	10.83 m ²
厨房	1 室	88.95 m ²	理美容室	1 室	20.79 m ²
介護職員室	2 室	50.14 m ²	その他 (廊下、階段等)		981.53 m ²
休憩室	2 室	23.72 m ²			

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

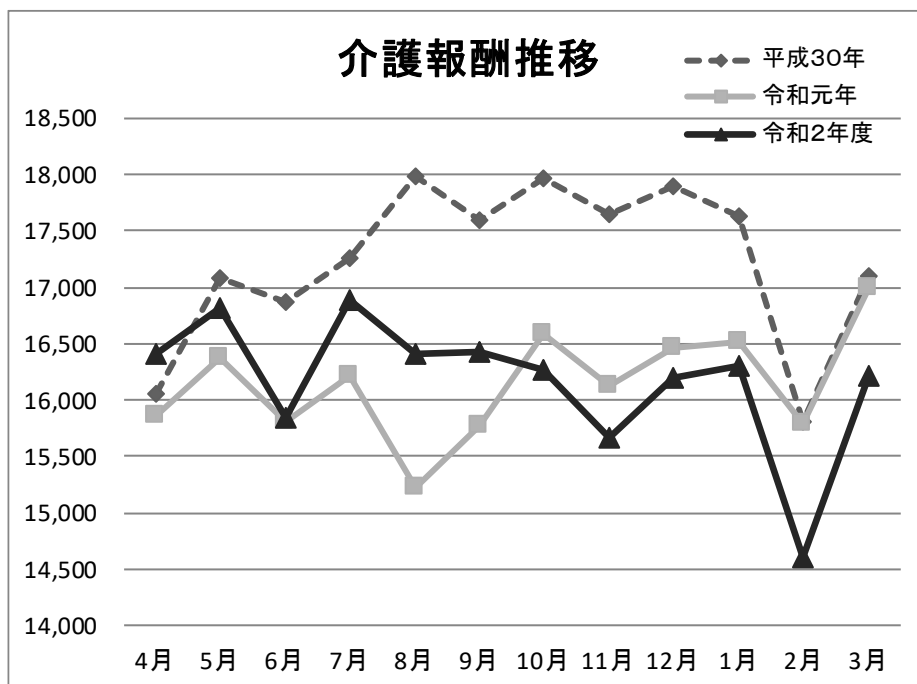
区分	室数	床面積	一人当面積 A
個室	30 室	507.38 m ²	16.91 m ²
4 人部屋	10 室	349.48 m ²	8.74 m ²
計	40 室	856.86 m ²	12.24 m ²

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員 59 名)

	当月 1 日	新規入所者				退 所 者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4	58	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1
5	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	59	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2
7	58	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
8	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	59	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	3
11	56	1	0	2	3	0	0	0	1	1	0	2
12	57	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	1
1	57	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	1
2	57	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2
3	56	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
計	694	4	3	4	11	0	0	1	1	9	2	13



「特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト」

【令和 2 年度まとめ】

1. 総評

当法人が目指す「ごちゃまぜ福祉」の先駆けとなる施設として、令和 2 年 10 月 26 日に開設したが、新型コロナウイルスの影響から利用者と地域交流を重視する目標は保留となっている。職員も異動職員と新採用職員の混合チームで開設することもあり、不安要素も大きかったが、中堅職員の奮闘もあり大きな混乱なく初年度を終えることができた。

ただ、ショートステイ事業と同時開設を目指した人財確保については、計画を 6 名下回り、特養のみ先行開設となった。人財確保が計画どおりいかなかったことも要因となり、段階的な入居計画も満床予定時期がずれ込み、最終的に年度内での満床を達成できず、利用率に大きな影響を及ぼした。満床目標未達成には人財不足の要因のほか、地域密着型特養であることから近隣市町村である東温市からの入居問い合わせに応えることができなかったことも大きな要因となっている。

2. サービス目標

①利用率の安定

開設前より入居相談を実施していたが、総評で記したとおり地域密着型特養の特性に加え、コロナ禍における面会制限の影響から家族が在宅等からの入居に踏み切れないケースが多く、キャンセルに繋がり、満床予定時期が遅れてしまった。

又、病院から入居に繋げたケースでは入退院を繰り返すことが多く、利用率の安定を図ることができなかった。

②円滑な業務の確立

経験値を含めたバランスの取れた職員異動についてはある程度計画どおり進められた。

又、事前の業務シミュレーションも活かすことができ、開設後の業務に大きな支障が出ることはなかった。

ただ、人財確保については計画どおり進めることができず、新採用職員に対して余裕のある指導を図ることはできず、開設より既に 2 名の退職者を出している。

3. 利用率

予定より開設時期が遅れたこと、満床計画時期が遅れたこと、又、新型コロナウイルスの影響で新規受け入れに施設側や家族側が慎重になったこと、更には入居後の長期入院の要因が重なり、安定した利用率に繋がれなかった。特に地域密着型特養の特性である施設所在地の同一市町村からの入居者受け入れについては、想像以上に苦戦を強いられ、最終的に年度末に 5 部屋の空室を残す結果となった。

これら様々な要因が重なり、10 月 1 日開設予定の目標利用率 85%に対し、利用率 52.1%の厳しい結果となった。

（作成責任者：特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト 相談員 仲村竜哉）

1. 事業概要

(1) 施設名 特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト

(2) 所在地 松山市平井町 1287 番地

(3) 建物設備の状況

土地 9,805.08 m² (デイ併設)

建物 4,243.69 m² (木造・鉄筋コンクリート造金メッキ鋼板ぶき地下1階付き平屋建て)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	39 室	527.90 m ²	備蓄倉庫	5 室	57.48 m ²
共同生活室・キッチン	4 室	363.86 m ²	洗濯室	1 室	8.25 m ²
浴室	3 室	27.90 m ²	汚物処理室	2 室	8.25 m ²
脱衣室	3 室	42.40 m ²	スタッフルーム	2 室	69.09 m ²
便所	21 室	79.24 m ²	ゲストルーム	1 室	21.93 m ²
医務室	1 室	14.00 m ²	職員休憩室	1 室	51.95 m ²
介護材料室	2 室	28.22 m ²	エントランスルーム・廊下	1 室	617.33 m ²
リネン庫	1 室	14.00 m ²	その他		2,311.89 m ²

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

区分	室数	床面積	一人当面積 A
ユニット型個室	38 室	514.9 m ²	13.55 m ²
ユニット型個室	1 室	13.0 m ²	13.00 m ²
合計	39 室	527.9 m ²	13.54 m ²

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員 29 名)

	当月 1 日	新 規 入 所 者				退 所 者						
		在宅	そ の 他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施 設へ 転出	死亡	そ の 他	計
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
11	2	6	6	1	13	0	0	0	0	0	0	0
12	15	1	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0
1	19	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2
2	18	1	3	1	5	0	0	1	0	0	0	1
3	22	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0
計	76	9	14	4	27	0	0	1	0	2	0	3

「特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにと」

【令和 2 年度まとめ】

1. 総評

新人職員や介護経験の少ない職員に対し、時間をかけた丁寧な人財育成や、法人キャリアアップ制度「梅星制度」を活用したベテラン・中堅職員の基本知識と技術の習得は、新型コロナウイルスの影響を受け、施設内外の研修が軒並み開催中止、参加自粛となり、知識と技術に対する抜本的な見直しやチャレンジの場がなくなり、目標を達成することができなかった。

又、家族に対しての面会の中止や、新規事業開設に伴う生活相談員の異動もあり、家族との関わりの方に変化があった為、不安を与えた 1 年となっている。

2. サービス目標

① 24 時間シートの活用

24 時間シートの有効活用については、シートの活用に職員が慣れてきており、作成だけではなく見直しも行えた。ようやく 24 時間シートの活用が本格的に実用段階となってきたので、継続目標としていく。

② 人財育成

各ユニット別々という考えをなくすことで、ユニット間での職員異動を実施した。ユニットごとにある他人事感は減少し、一体感のあるケアに繋がられている。

又、記録システムの活用による全ユニット間の情報共有については、各階の共有は図れたが、全体での情報共有には至らなかった。

介護知識と技術の向上を図り、レベル格差を解消する目標については、新型コロナウイルスの影響から各種内外研修や法人内キャリアアップ制度の中止が相次ぎ、研修自体への参加ができなかった。年度の後半にはオンライン研修なども増えてきていたが、施設内の機器の環境が整っておらず、介護知識と技術の向上や統一は図れなかった。

3. 利用率

新型コロナウイルスの影響から新規入居の受け入れには慎重にならざるを得ず、年間を通して長期間の空所ができてしまった。

又、新型コロナウイルスには関係なく、体調不良による長期の入院に繋がってしまったケースもあり、目標利用率 97% を 4 ポイント下回る、利用率 93% の結果となった。

(作成責任者：特別養護老人ホームゆにと生活相談員 久保誠)

1. 事業概要

(1) 施設名 特別養護老人ホーム梅本の里ゆにと

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (特養・GH 併設)

建物 2,945.72 m² (鉄骨造一部鉄筋コンクリート造り地上3階建地下1階)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	576.92 m ²	備蓄倉庫	1 室	12.32 m ²
共同生活室・キッチン	4 室	201.00 m ²	洗濯室	1 室	24.03 m ²
浴室	6 室	93.13 m ²	汚物処理室	2 室	8.99 m ²
脱衣室	6 室	67.35 m ²	汚物集積室	1 室	13.46 m ²
便所	22 室	110.61 m ²	スタッフルーム	2 室	30.27 m ²
医務室	1 室	12.44 m ²	ゲストルーム	1 室	11.59 m ²
機能訓練室	1 室	12.55 m ²	霊安室	1 室	11.45 m ²
相談室	1 室	7.04 m ²	職員休憩室	2 室	27.07 m ²
介護材料室	1 室	6.10 m ²	レクリエーションホール兼会議室	1 室	220.91 m ²
リネン庫	1 室	7.20 m ²	その他		1491.29 m ²

(4) 居室の状況 (ショートステイ部分含む)

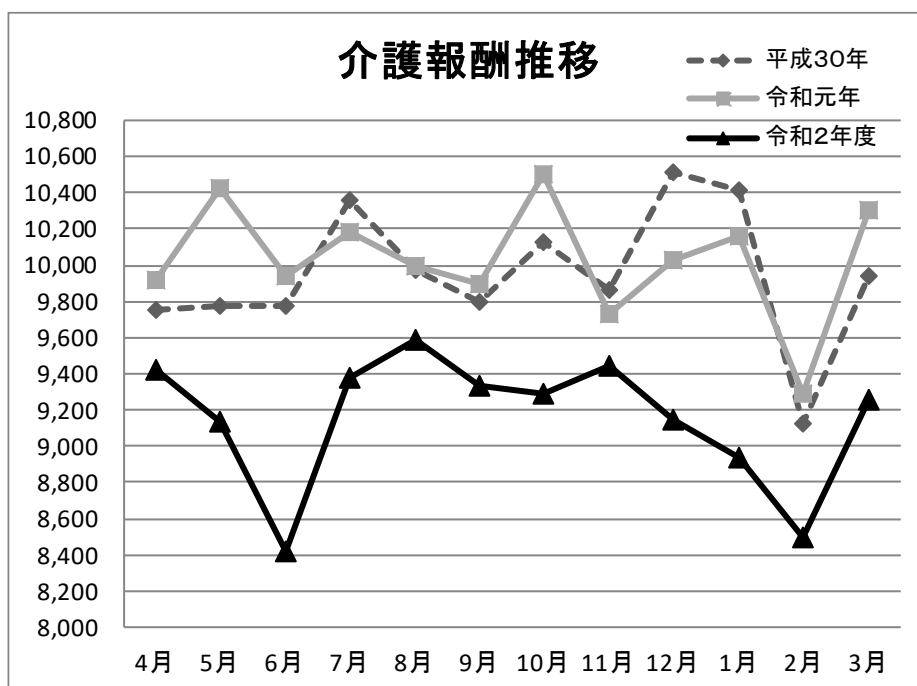
区分	室数	床面積	一人当面積 A
ユニット型個室	40 室	576.92 m ²	14.42 m ²

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員30名)

	当月 1日	新規入所者				退所者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4	30	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5	29	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
6	27	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7	28	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
8	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	30	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
10	29	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1
11	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	30	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1	29	1	1	0	2	0	0	1	0	0	0	1
2	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
計	352	4	3	0	7	0	0	2	0	7	0	9



Ⅲ. 認知症対応型共同生活介護事業

「グループホーム梅本の里」

【令和2年度のまとめ】

1. 総評

年度前半に傷病等による長期入院や急変からの退去が相次ぎ、下半期においては介護度の低い入居者が大半を占めている。

アクティビティ活動に関しては新型コロナウイルスの影響により外出行事が制限されたが、日常生活の中での入居者に役割を持って頂くことに取り組んだことで、一定の成果がみられた。

統一したケアの実践を目指したが、コロナ禍における研修や勉強会の中止により、意識の統一が図れず、入居者の状態変化の意識や認知症ケアについての知識に職員間でばらつきあり、次年度への課題を残した。

2. サービス目標

①身体機能維持と意欲低下を防ぐ

毎日10時と15時の体操にはDVDやテレビ録画を活用し、10分から15分の体操を実施している。声掛けの工夫によって参加する入居者が増えたことや、新たに毎食前の口腔体操を取り入れたことにより、身体機能維持に繋がっている。

又、外出行事や家族の面会は制限されたが、掃除や洗濯物たたみなどの生活上での役割づくり、ベランダの散歩と日光浴を取り入れ、意欲低下防止も図った。

ただし、長期入院や急変による退所も相次ぎ、グループホームの生活維持に繋がったとは言い難い結果となっている。

②認知症ケアの専門性を高める

コロナ禍において外部研修には参加できず、又、三密回避から事業所内研修も思うように開催できなかったことから、ほぼ目標を達成するに至っていない。

③居住環境の整備

居室の改修については退去時に順次、改修を進めていたが、今年度は外部業者立ち入り制限も影響し、退去時ごとの改修には繋がれなかった。ただし、自施設の営繕職員により、できる限りの対応を行い空室期間が長期とにならないよう取り組んだが、影響が出たことは否めない。

3. 利用率

長期入院から退去となるケースが続いたこと、新型コロナウイルスの影響により新規受け入れができず空室期間が長くなってしまったことが大きく影響し、目標97%に対し利用率87.1%と大幅に下回る結果となり、収支において大きな打撃を受けることとなった。

(作成責任者：グループホーム梅本の里 管理者 村上 美香)

1. 事業概要

(1) 施設名 グループホーム 梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 6,005.98 m² (特養・ゆにっと併設)

建物 719.50 m² (鉄筋コンクリート造り 3 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室 1	16 室	196.32 m ²	洗面所 1	16 室	40.32 m ²
居室 2	2 室	35.32 m ²	洗面所 2	2 室	5.36 m ²
押入	18 室	14.58 m ²	洗濯室	2 室	17.68 m ²
事務室	2 室	14.58 m ²	倉庫	2 室	47.05 m ²
食堂	2 室	118.50 m ²	トイレ	4 室	10.00 m ²
リビング	2 室	28.05 m ²	調理室	2 室	14.72 m ²
浴室	2 室	13.12 m ²	その他		122.60 m ²
脱衣室	2 室	10.10 m ²			
休憩室	1 室	31.20 m ²			

(4) 居室の状況

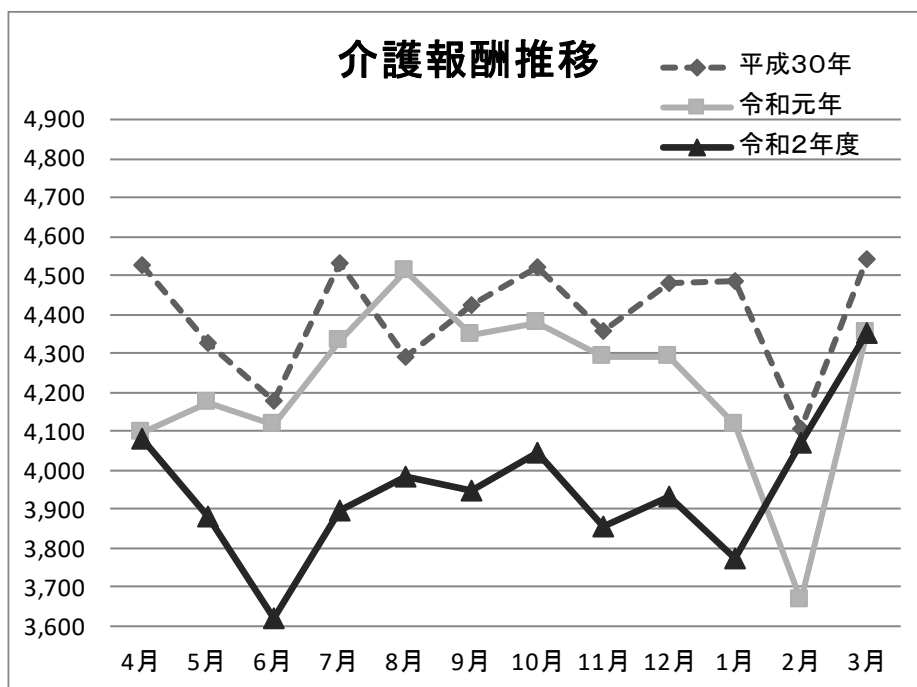
区分	室数	床面積	一人当面積
個室 1	16 室	249.60 m ²	15.60 m ²
個室 2	2 室	42.30 m ²	21.15 m ²
計	18 室	291.90 m ²	16.22 m ²

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員18名)

	当月 1日	新規入所者				退所者						
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施設 へ 転出	死亡	その他	計
4	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5	16	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6	15	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7	16	2	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1
8	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
9	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
11	17	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
12	17	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	2
1	16	1	1	1	3	0	0	0	1	0	0	1
2	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	199	4	3	2	9	0	0	1	2	3	2	8



IV. ケアハウス事業

「ケアハウス梅本の里」

【令和2年度 まとめ】

1. 総評

新型コロナウイルスの影響から年間の外出行事や施設内行事が全て中止となった。

そんな中で夏場にはエレベーターの大規模改修があり、1週間程度各階での生活を強いられたこともあり、入居者非常に大きなストレスを抱える環境となってしまった。

このような生活環境において、できる限りストレスの軽減や他者との交流を図るため、感染予防対策をとった上で施設内での手作業、アルバムづくりなどの行事を開催し、参加を促すことで自立生活の維持に努めた。

ただし、例年冬場に流行するインフルエンザ等の感染症については、コロナ禍における感染予防対策もあり、感染症による体調不良者は一人も出ていない。

2. サービス目標

①生活相談

感染予防対策を図りながら日時を予定せず随時受け付ける形で実施した。

自分から相談に来られない方についてはこちらから声掛けを行いニーズを聞き出し、自立生活維持において必要なことに対しては各事業所との連携を図り、必要な介護サービスを提供するなど、現状における悩みを解消できるよう取り組んだ。

デイサービス移転後は、食事スペースが1階に変更され、事務所により近い環境となったことから、今までより気軽に職員との談話に来られるようになり、世間話をすることで生活上での悩みや要望を聞き出す事ができた。

②食事・個別サービスの充実

3密回避の観点から食事に関するイベントは今年度中止としている。

食堂においても感染予防対策として、各食卓に透明のビニールシート設置し、食事時の飛沫感染対策を図った。

③ティータイム

入居者の交流を目的とし、定期的な開催を計画していたがコロナ禍において今年度は中止としている。

④グループ活動

アルバム作り、手作業行事は感染症対策を行った上で実施した。

コロナ禍により外出行事や施設内行事が制限される中、手作業関係は施設内で唯一開催出来るイベントで、入居者の楽しみとなった。

又、様々なイベントが開催できない中で、年度当初より参加者が増え、他の入居者間の交流の場となり、良好な人間関係の構築に繋がれたと感じる。

3. 利用率

身体機能低下や認知症の進行により今年度は3名の退所となっている。

又、ケアハウス入居者は高齢化が進み、退所には至っていないが入退院の繰り返しや介護サービスが必要な方が増加しており、自立生活が困難な入居者も多くなっている。現状においてはケアマネや家族と情報共有した上で必要な介護保険サービスを提供し、ケアハウス生活を維持しているが、今後の課題として残されている。

入居に関してはインターネットサイトに空室状況を掲載することにより、地域包括支援センターや居宅事業所、病院から多くの問い合わせがあったが、早期入居希望者が多く、入居に繋がらないケースが殆どであった。

又、新型コロナウイルスの影響により入居受け入れを停止した期間があったことや、感染予防対策の観点から空室期間での住宅改修が実施できなかったことも影響し、目標利用率95%に対し、1.1ポイント下回る利用率93.9%の結果となった。

(作成責任者：ケアハウス梅本の里 生活相談員 一井 善光)

1. 事業概要

(1) 施設名 軽費老人ホーム（ケアハウス）梅本の里

(2) 所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3) 建物設備の状況

土地 1,027.00 m²

建物 1,888.03 m² (鉄筋コンクリート造り 5 階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	30 室	675.90 m ²	機能訓練室	1 室	252.45 m ²
食堂	1 室	82.92 m ²	更衣室	1 室	8.11 m ²
浴室	2 室	67.67 m ²	娯楽室	1 室	86.05 m ²
洗面脱衣所	1 室	35.64 m ²	談話室	2 室	52.88 m ²
洗濯室	1 室	82.73 m ²	その他		390.79 m ²
トイレ	8 室	66.89 m ²			
事務室・相談室	2 室	48.70 m ²			
宿直室	1 室	12.04 m ²			
ゲストルーム	1 室	10.56 m ²			
会議室	1 室	14.70 m ²			

(4) 居室の状況

区分	室数	床面積	居室付属設備			
			洗面所	便所	調理設備	その他
個室	30 室	675.80 m ²	有	有	有	

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員30名)

	当月 1日	新規入所者				退所者					
		在宅	その他	病院	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療 機関 入院	他施 設へ 転出	死亡	計
4	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	28	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
7	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	27	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
9	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	29	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1
12	29	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
1	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
3	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	338	4	0	0	4	0	0	3	0	0	3

(2) 介護認定による内訳

(令和3年3月31日現在)

	自立	要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	計
65～69歳	0	1	0	0	0	0	0	0	1
70～74歳	0	3	0	0	1	0	0	0	4
75～79歳	0	1	1	1	1	0	0	0	4
80～84歳	1	1	2	1	1	0	0	0	6
85歳以上	1	3	2	6	2	0	0	0	14
入所者計	2	9	5	8	5	0	0	0	29

内訳：男性 10名 平均年齢 男性 78.8歳

女性 19名 女性 84.5歳

V.短期入所生活介護事業

「短期入所生活介護 梅本の里」

【令和 2 年度のまとめ】

1. 総評

新型コロナウイルスの影響から、新規受け入れ中止期間が発生したこと、1 年を通じて慎重な受け入の実施、新型コロナウイルスを懸念しての利用キャンセル、更には利用者の疥癬発生から受け入れを見合わせた期間の発生が大きく影響し、利用率は大幅に低下した。

但し、他施設において介護困難等で受け入れてもらえなかった利用者を受け入れ、本人の意向に沿ったサービス提供に努め、利用継続に繋がれたことは令和 2 年度における職員スキルアップでの収穫と成果となった。

2. サービス目標

①感染予防

コロナ禍においてこれまで以上に徹底した感染予防対策を図れたことで、冬場における風邪やインフルエンザ等の蔓延はなかった。

熱発者が発生した場合も直ちに個室対応に移行し、ケアマネや家族に連絡を行い一旦退所して受診に繋げることを徹底した結果、感染が広がることはなかった。

ただ、コロナ禍においては従来型特養・ショートステイ空間の特性から、入居者・利用者の生活空間の区分けは非常に難しいところがあり、ゾーニングに対する課題を残している。

②利用者の満足度向上

特養同様、新型コロナウイルスと人財不足が影響し、目標に掲げていた個別サービスの提供が十分に実施できず、施設生活における満足度向上には繋げることはできていない。しかし、他施設で対応困難な利用者の受け入れを実施したことで、居宅ケアマネージャーや家族からの高い評価を頂く事が出来た。

3. 設備、備品の入れ替え

特養同様、新型コロナウイルス感染予防対策支援金を活用し、加湿器付き空気清浄機 11 台の購入を行った。

居室壁紙の修繕については実施できていない。

4. 利用率

新型コロナウイルスの影響を大きく受け、目標利用率 90% に対し利用率 69.6% の結果となり、20.4 ポイント目標を下回った。

これは、他事業所やケアマネージャーとの連携に消極的となったところもあり、新型コロナウイルスの影響だけとは言い難いところもあり、反省点も残した。

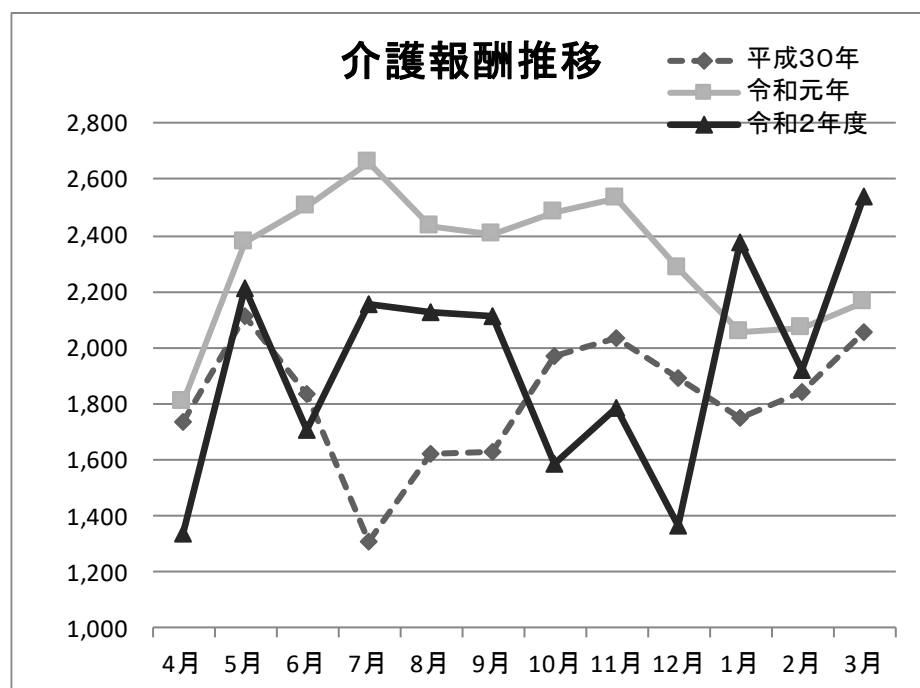
(作成責任者：短期入所生活介護 梅本の里 生活相談員 兵藤 研也)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員 11 名)

	介 護 保 險 利 用									利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
4	15	201	6.7	0	1	3	5	2	4	60.9
5	13	223	7.2	0	1	1	5	3	3	65.4
6	17	211	7.0	0	3	1	7	4	2	63.9
7	17	276	8.9	1	3	1	7	2	3	80.9
8	17	242	7.8	0	2	2	6	3	4	71.0
9	20	257	8.6	0	3	2	7	3	5	77.9
1 0	13	184	5.9	0	2	2	4	1	4	54.0
1 1	16	212	7.1	0	3	2	8	0	3	64.2
1 2	18	190	6.1	0	2	5	8	1	2	55.7
1	18	276	8.9	0	2	4	8	1	3	80.9
2	17	236	8.1	1	2	2	7	1	4	76.6
3	17	286	9.2	1	1	2	7	1	5	83.9
計	198	2,794	7.7	3	25	27	79	22	42	69.6



「梅本の里サテライト・ショートステイ」

【令和２年度まとめ】

１．総評

サテライト特養と同時開設を目指していたが、計画どおりの人財確保に至らず、特養の開設より１ヶ月半遅れての開設となり、利用率に大きな影響を残した。

又、特養同様「ごちゃまぜ福祉」の拠点事業となるよう、地域との交流と共存を大きな目標として掲げていたが、新型コロナウイルスの影響により交流自体が断たれたことや、居宅支援事業所へのPR活動も制限されるなど、目標に対する障壁が大きい初年度となった。

２．サービス目標

①PR活動

法人内での短期入所事業が３事業所目となることから、地域との交流と共存を軸にしたPR活動を居宅支援事業所等を実施し、サテライト・ショートステイならではの特性をアピールする予定であったが、コロナ禍での大々的なPR活動は困難となり、特性を持たせることもできなかった。

②円滑な業務の確立

開設当初に多少の混乱はみられたものの、徐々に職員も落ち着き、業務に支障をきたすことはなかった。

又、開設から離職者がなく、職員の安定が短期間での業務安定に繋がったと感じている。

ただし、研修や施設内勉強会などが制限されたことから、介護知識と技術の向上や統一には程遠く、業務を最優先することが多くみられ、利用者視点での介護については課題を残した。

③継続利用へ繋げる

既存のショートステイと同様に週末の利用希望が多く、平日の利用希望は少なく利用に偏りがみられた。さらに１度のみの利用でそれ以降の利用がない場合もあり、定期的な利用に繋がらなかったものもあった。職員間で利用時の様子等から継続利用に繋がらない理由等を検討し改善する必要がある。

３．利用率

開設時期や人財確保が遅れた為、利用率には大きな影響がでた。更に、PR活動も制限され、大々的な開設の告知も実施できなかったことから、利用の出足も悪く、週末利用に偏り、平日の利用が安定できなかったことなどが影響し、10月1日開設からの目標利用率60%に対し、利用率29.3%の結果に留まった。

（作成責任者：梅本の里サテライト・ショートステイ 生活相談員 仲村 竜哉）

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員 10 名)

	介 護 保 険 利 用									利用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介 護 1	要介 護 2	要介 護 3	要介 護 4	要介 護 5	
4										
5										
6										
7										
8										
9										
1 0										
1 1										
1 2	4	15	0.5	0	0	2	1	0	1	4.8
1	8	96	3.1	0	1	3	1	2	1	31.0
2	11	96	3.4	2	1	3	1	3	1	34.3
3	13	147	4.7	1	1	1	2	6	2	47.4
計	36	354	2.9	3	3	9	5	11	5	33.0

「ショートステイ 梅本の里ゆにっと」

【令和2年度のまとめ】

1. 総評

新規事業開設に伴い10月に生活相談員の交代や大規模な職員異動があり、利用者や家族との関りを再度構築しなければならない部分があったが、利用時の様子について記録をとり、送迎時に家族に直接伝えることで、この半年間である程度の信頼関係を構築できたと感じている。

ただ、1年間を通じての利用については、新型コロナウイルスの影響があり、新規利用の中止期間や慎重な受け入れを実施せざるを得なかったことから、収支面では大幅な減収となっている。

2. サービス目標

①24時間シートの活用

コロナ禍において様々な行事やボランティア活動が中止となり、業務的には余裕が出た部分があったことで、ゆにっと特養同様に24時間シートの活用の充実が図れた。ただ、ショートステイ事業は利用人数が多く情報収集等に時間を要したことから、ゆにっと特養ほどの進展には至らず、利用者によって活用の差異が出ていることから、活用方法に対する改善の課題も残した。

②人財育成

職員間での「～のはず、～だろう」という慣れの部分を解消するため、特養とショート間での意識統一、又、ゆにっと全体として情報を共有することを目指し、パソコン等を活用し情報の「見える化」を進めたが、各階での共有に留まり、ゆにっと全体共有には至らなかった。

原因としては新規事業の開設に伴った職員異動や新しい職員の採用があり、年度後半は通常業務に対する教育が主となり、情報共有のシステムを構築するまでに至らなかったことがある。

又、ゆにっと特養同様、新型コロナウイルスの影響から研修や内部キャリアアップ制度が中止となり、基本知識と技術の向上と統一は図れなかった。

研修の機会の減少や、通常業務の教育に終始する中で、リスクへの意識が希薄化し、転倒等の事故につながったケースもあり、知識と技術の向上の重要性を改めて感じた年であり、課題を残すこととなった。

3. 利用率

新型コロナウイルスの影響は大きく、新規利用の受け入れ中止期間があったことや、利用再開後も家族等の行動歴から利用中止となるなど、受け入れに慎重にならざるを得なかった。

更に長期利用の方が施設入居となったケースも重なり、目標利用率90%を8.8ポイント大幅に下回る81.2%の結果となり、収支に大きな影響残した。

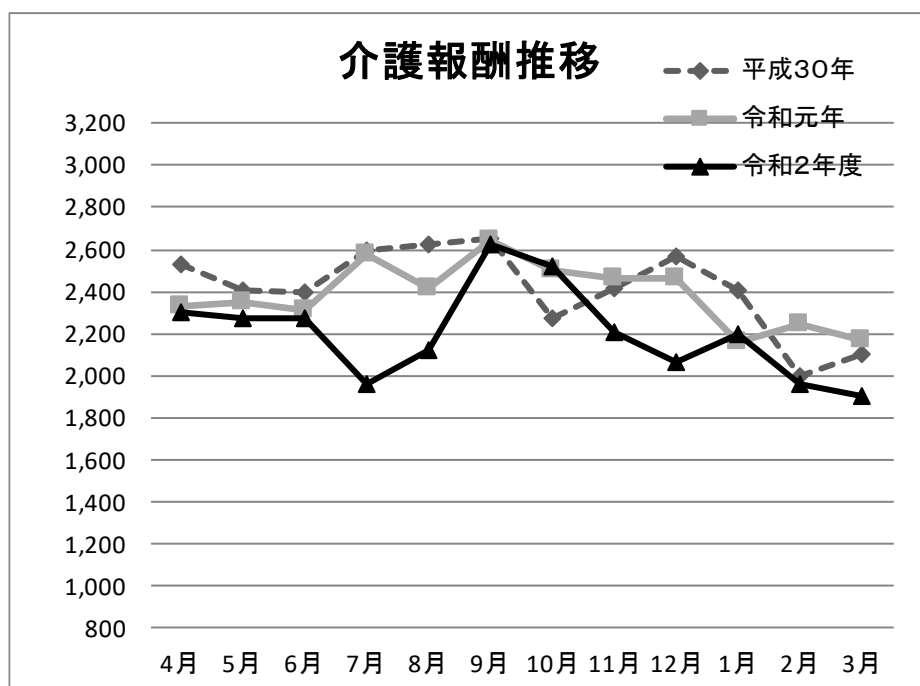
(作成責任者：ショートステイ梅本の里ゆにっと 生活相談員 久保誠)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員10名)

	介 護 保 險 利 用									利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)						
				要支援 1・2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
4	15	259	8.6	1	0	4	7	2	1	86.3
5	15	238	7.7	1	1	3	8	1	1	76.8
6	16	257	8.6	2	4	2	6	1	1	85.7
7	18	228	7.4	1	2	2	10	1	2	73.5
8	21	243	7.8	2	3	4	8	3	1	78.4
9	15	275	9.2	1	1	3	7	3	0	91.7
1 0	19	284	9.2	1	4	2	9	3	0	91.6
1 1	20	253	8.4	3	4	4	6	3	0	84.3
1 2	18	226	7.3	1	4	4	6	3	0	72.9
1	20	243	7.8	1	5	5	6	3	0	78.4
2	18	234	8.1	0	6	5	4	3	0	83.6
3	18	232	7.5	1	4	4	5	3	1	74.8
計	213	2,972	8.1	15	38	42	82	29	7	81.4



Ⅵ.通所介護事業

「デイサービス 梅本の里」

【令和2年度まとめ】

1. 総評

「ごちゃまぜ福祉」を展開する新たな拠点として、新規事業「いつもの - ISTUMONO - 」に移築したが、レストラン、銭湯など地域共存空間を活かした事業展開は新型コロナウイルスの影響から地域共生社会を実現化することができなかった。

又、これまでの集団レクリエーションから個別・グループケアを主体としたケアの移行については、施設内通貨の活用を図ったものの、レストラン、銭湯などでの利用展開も図れず、施設内通貨自体への戸惑いを見せる利用者も多く、まだまだ課題を残した。

利用率についてもコロナ禍におけるPR活動が制限されたことや、感染予防対策に終始しなければならない環境、感染を心配して利用を見合わせるケースが多くあったことから、収支面においては厳しい1年となっている。

2. サービス目標

①役割づくりサービスの実現

移築時での施設内通貨「うーめ」の活用を目指し、事前協議を進めていたが、職員の施設内通貨への理解を高めることや、備品等の準備に時間を費やしてしまい、開設時での導入には至らなかった。

開設後にうーめ委員会を発足し、協議を重ね職員の理解度を高めた上で、12月には定着に向けて利用者に「うーめ」についての説明を繰り返し、1月より本格的に使用を開始したが一定の利用者の理解に留まり、重度の利用者に向けての活用には大きな課題を残している。

又、レストランや銭湯の共有スペースの活用が図れないことや、3密となる行事等が実施できないことから支出面の活用方法を課題としている。

②共生型サービスの取り組み

年齢や障がいの有無、人種にかかわらず同一空間での地域共存を目指しての移築であったが、コロナ禍においては同一空間利用が困難であった為、共生型デイや地域への空間開放については次年度へ持ち越しとなっている。

③食事サービスの充実

昼食の提供にあたり、障がい者就労支援事業による食事提供を目指していたが、レストランの開設の延期などから実施には至らず、調理員により食事を提供している。

移築時よりこれまでの食事スタイルを抜本的に変更し、感染予防対策を十分に図った上でのビュッフェスタイルとした。殆どの方が出来上がったメニューを目視しながらお膳に乗せられることで食事意欲が増すこともあり、ビュッフェスタイルは概ね好評を得ている。

又、デイサービスの予定表も刷新し、食事メニューがわかりやすい予定表としているため、食べたいメニューの時に利用を選択するなど、新しい売りとなっていると感じる。

④地域コミュニティとしての役割

レストラン、銭湯の開設延期もあり、地域コミュニティの場としての役割は今年度においては果たせていない。

3. 利用率

コロナ禍において新規利用の受け入れに慎重な姿勢をとったことや、感染予防の観点から利用を控える利用者も多く、利用率増には至っていない。

又、移築のPR活動も制限されたことで、他事業所等への周知度も浅かったこともあり、目標利用率 33 名／日に対し利用率 27.7 名／日と目標に遠く及ばない結果となった。

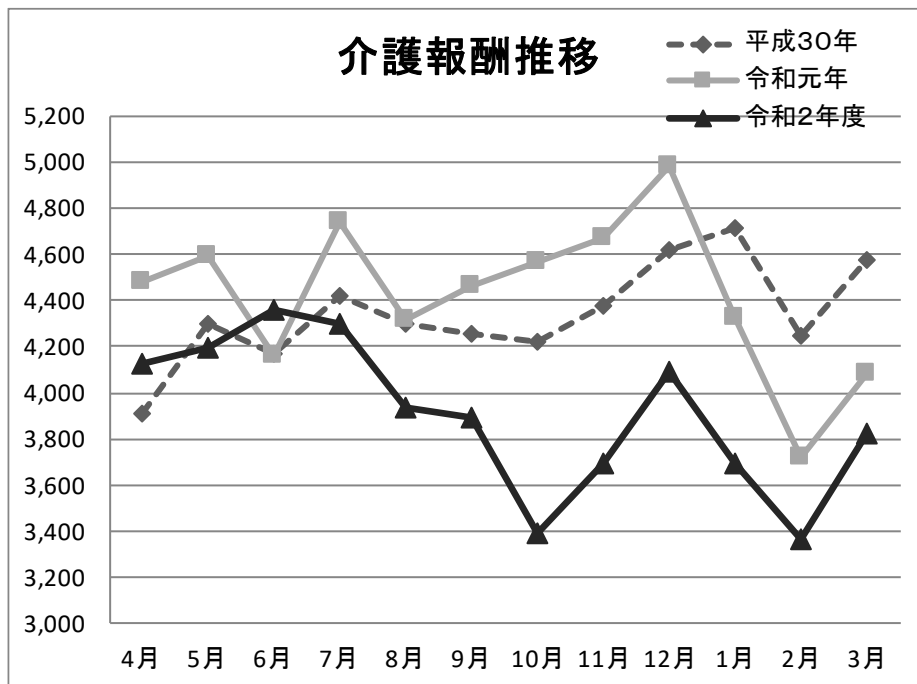
(作成責任者：デイサービス梅本の里 所長 佐伯 誠治)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(4月～10月 定員55名／11月～定員45名)

	介 護 保 険 利 用										利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)							
				要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	
4	66	766	29.5	8	8	25	13	6	4	2	53.6
5	64	764	29.4	8	7	25	13	5	5	1	53.4
6	65	797	30.7	8	9	22	15	6	4	1	55.7
7	67	794	29.4	9	9	21	14	6	6	2	53.5
8	65	748	28.8	8	9	22	12	5	6	3	52.3
9	66	725	27.9	9	9	23	10	6	6	3	50.7
10	67	643	25.7	9	10	24	9	6	6	3	46.8
11	66	687	27.5	11	10	24	9	4	6	2	61.1
12	68	729	27.0	11	10	22	13	5	5	2	60.0
1	66	660	27.5	13	9	21	13	4	4	2	61.1
2	70	635	26.5	12	10	25	14	4	4	1	58.8
3	68	734	27.2	12	10	22	11	6	6	1	60.4
計	798	8,682	28.1	118	110	276	146	63	62	23	55.2



「デイサービスセンター梅本の里・小梅」

【令和 2 年度まとめ】

1. 総評

開設当初からの「見つけようあなたを！探そうやることを！楽しもう人生を！」を基本方針とし、コンセプトの『自己選択・自己決定・自己実現ができるデイサービス』を承継し、これまでどおり施設内通貨（うーめ）を活動展開の中心ツールとして活用した。

施設内通貨活動として「個々の楽しみを充実し思う時間が過ごせること」「人から必要とされ自分の役割にやりがいを感じられること」「自分の可能性を伸ばし新たな自分に気付けること」への展開を目標としていたが、新型コロナウイルスの影響から様々な活動や行事を自粛することとなり、“個々の思う時間を過ごす活動”に制限をかける状況に陥った。

この状況下において利用者の“その人らしさ”を尊重できるように、小梅の空間で出来ることに力を注ぎ、感染症予防対策（手洗い・うがい・消毒・マスク着用・パーテーション・換気など）を講じた上で書道・フラワー・カラオケ、アレンジした体操やゲームなどのレクリエーションプログラム、昼食や小梅 Café など食べる楽しみの充実など満足度を高める活動を展開した。

又、快適な空間を提供するために目標としていたデイサービス空間のハード面の改修は、畳や脱衣室フロアの改修、ロールスクリーンの設置を実施し、利用者生活スペースの快適化を図った。

ただし、コロナ禍においては思うように地域交流が図れず、地域の人が気軽に立ち寄れる場所としての小梅の役割を果たすことはできなかった。

2. サービス目標

①働きやすい環境づくり

新規事業の開設により 10 月には大規模な人事異動があり、小梅も大きく環境が変化した年となった。

大規模な職員異動が実施されることについては事前に十分に職員に伝え、心づもりはしていたが、中心となる職員の異動があったことや、小梅に対するそれぞれの思いがあったことから職員の中に様々な葛藤が生まれた。ただ、新たに迎える職員への気配りや思いやりを持ってフォローすることを心掛けたことや、個人携帯ツールを活用し、ストレスや悩みなどをため込まない環境を整えたことから新たな団結力を生むことができている。

又、有給取得率は前年度に引き続きほぼ 100%で推移していることや、休憩時間の確保も達成できた。

しかしながら目標としていた就業時間内での委員会や職員会議の開催は送迎があるデイサービスの特性から改善方法の確立に至っていない。

②施設内通貨「うーめ」の活性化

利用者の要望の情報収集、個別ケアやグループ活動などの充実など生きがいや役割づくりのツールとして継続的な目標としている「あゆみシート」はある程度の役割を果たしていたことから、更に充実したサービスへの展開を目指していた。しかし利用者自身が現状のサービスや活動に対し満足度を十分に持っており、デイサービスでの生活も安定していることも

あり、新たなサービス展開より現状維持で安定したサービス提供優先することに切り替え、活用を一時保留とすることとした。

施設内通貨「うーめ」の活用についてはマンネリ化が大きな課題となっていた。コロナ禍において、行事や活動が自粛される中での大きな変革はもたせないものの、活動項目を利用者が選択する掲示板のマグネットやテープの色を刷新したこと、更には活動内容のネーミングの変更を実施した結果、視覚の変化により掲示板への興味が現れ、活動への意欲向上に繋がっている。

③小梅として必要な役割

新型コロナウイルスの影響により、地域の行事や活動のほとんどが中止され、地域で果たしてきた小梅の役割も断たれてしまった。

これまで地域コミュニティの場として開放していた小梅であったが、子供たちが集っていたエントランスホールや駄菓子屋の使用自粛、地域団体の会議等の使用も全面的に中止するなど、新たに向かえた生活環境の中では役割自体が閉ざされた1年となった

3. 利用率

コロナ禍においては新規利用の受け入れに対しては慎重にならざるを得なかったが、感染に対する職員の危機意識が高まったことや、できる限りの感染予防対策を図ったことから体調不良者や病気で休む方の減少に繋がり、目標利用率 39 名／日に対し 39.5 名／日の結果となり、大きな成果を出すことが出来た。

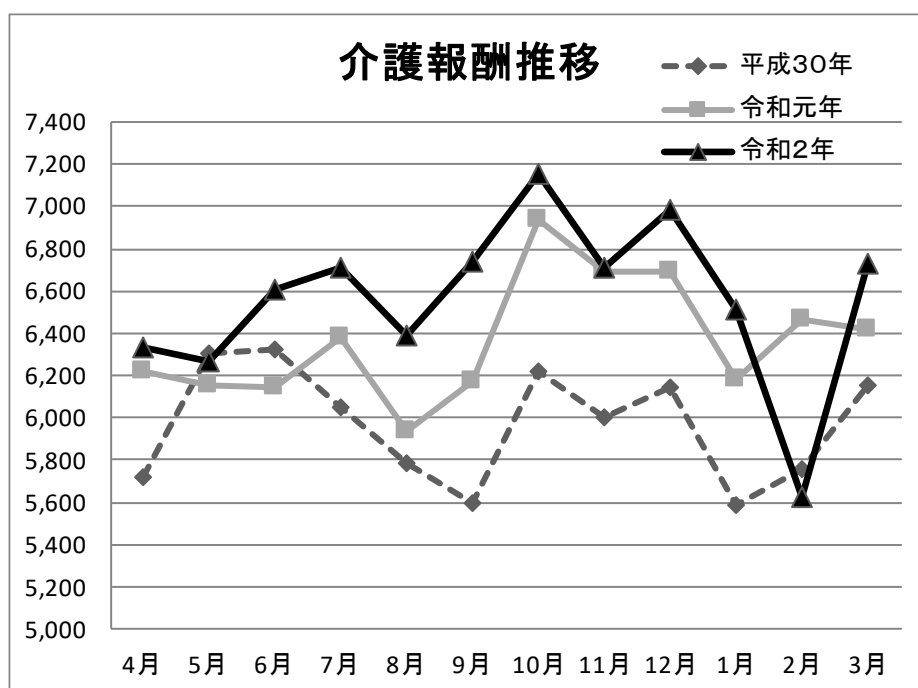
(作成責任者：デイサービスセンター梅本の里・小梅 所長 稲荷衆一)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員 45 名)

	介 護 保 険 利 用										利 用 率 (%)
	実 人 数	延 人 数	1 日 平 均	利用者要介護度別内訳(人)							
				要 支 援 1	要 支 援 2	要 介 護 1	要 介 護 2	要 介 護 3	要 介 護 4	要 介 護 5	
4	94	973	37.4	17	12	35	16	6	7	1	83.2
5	93	981	37.7	14	11	37	17	6	7	1	83.8
6	90	1,011	38.9	15	10	34	17	6	7	1	86.4
7	95	1,037	38.4	15	12	35	18	7	7	1	85.3
8	97	988	38.0	17	12	35	18	7	7	1	84.4
9	97	1,042	40.1	17	10	36	20	6	7	1	89.1
10	101	1,116	41.3	17	10	40	22	5	6	1	91.9
11	96	1,017	40.7	13	8	42	21	4	7	1	90.4
12	95	1,107	41.0	12	8	42	21	4	7	1	91.1
1	90	974	40.6	10	8	41	20	3	7	1	90.2
2	87	843	40.1	10	8	38	20	3	7	1	89.2
3	89	1,035	38.3	11	8	39	20	3	6	2	85.2
計	1,124	12,124	39.4	168	117	454	230	60	82	13	87.5



VII.訪問介護事業

「訪問介護事業」

【令和2年度まとめ】

1. 総評

コロナ禍において訪問介護事業は最終的なサービスとして位置づけられており、感染予防の観点からサービス提供を見合わせることや中止とすることが難しく、非常に神経を使いながらの活動となった1年であった。

近年の課題としている人財確保も進まず、登録ヘルパーは永年勤続者が多く高齢化が進んでいることから、感染リスクのある利用者の対応が困難な職員が殆どで、利用者の担当の割り振りにも気を使わなければならなかったことから、改めて人財の充実の課題が浮き彫りとなった。

又、令和3年度にはサービス提供責任者の1名が定年を迎えることや、コロナ禍において訪問介護事業での就労希望は皆無に等しいことから、人財確保の課題が残されることとなる。

職員間のメンタルヘルスの観点からの職員間の交流・コミュニケーションの充実についても、ヘルパー会や研修の開催方法を変更せざるを得ず、集まることを回避しなければならなかったことから、職員間行事や研修の充実にも至っていない。

2. サービス目標

①人財採用・育成

サービス提供責任者3名体制で事業に当たってきたが、次年度には1名の定年退職を控えており、今年度中の新規職員の採用・育成を目標に掲げていたが、内定していた応募者の直前辞退もあり目標は達成できなかった。

又、2月に1名が育児休業に入ったため、サービス提供責任者2名体制となっており、人財確保の課題が残されることとなった。

登録ヘルパーについても全員が永年勤続者で、年々就業時間が減少しており、事業の運営にも影響が出始めている。

②介護の知識・技術の向上および地域に密着した事業所づくり

サービス提供責任者と登録ヘルパーが統一した介護技術の習得ができるよう、月に一度開催のヘルパー会を活用し、個別研修計画を作成した上で毎月テーマを決定しての事業所内研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響から全職員が集まることができず、今年度での目標達成は出来なかった。

必要な研修についてはオンライン研修を取り入れ、受講できなかった職員に対しても内容を文章化し共有した。

③目標・情報の共有

利用者ごとにサービス提供責任者と担当ヘルパーの連絡の機会をもち、対面できない場合もSNS等を活用し、問題に対して協議できる環境とした。

又、個別の相談が必要なケースではサービス提供責任者が直接面談することで、迅速な対応に繋げることができている。

④職員間の交流・コミュニケーション

新型コロナウイルスの影響で、目標としていた職員のための部署独自の行事開催は実現できず、職員それぞれがストレスを抱えた1年であった。

3. 利用率

年度前半は順調に利用数を伸ばしていたが、後半に利用者の入院・逝去・施設入所が相次ぎ、利用率が減少に繋がってしまった。

又、年度末にサービス提供責任者が育児休業に入り、サービス提供責任者人数減により提供利用件数の減に繋がる。

これら様々な要因に新型コロナウイルスの影響もあり、目標利用率を維持することが非常に厳しい1年であったが、常勤職員がカバーに入るなど職員全員でサービス提供を実施した結果、収支においては最小限の影響に抑えられた。

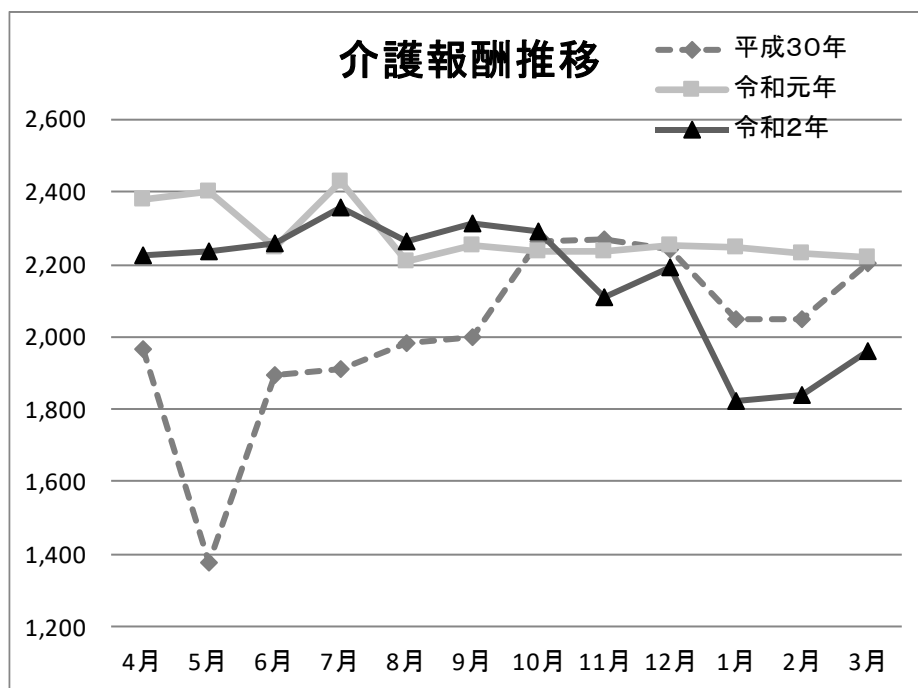
(作成責任者：訪問介護事業 梅本の里 管理者 荻野 桂子)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

月	実人数	回数	延時間	実人数	
				要介護	予防
4	88	766	764	43	45
5	87	758	755	43	44
6	87	800	787	43	44
7	87	845	823	44	43
8	86	796	775	44	42
9	86	830	809	45	41
10	86	790	780	44	42
11	84	740	726	44	40
12	80	748	753	41	39
1	75	630	639	39	36
2	71	621	635	39	32
3	71	699	696	38	33
計	988	9,023	8,942	507	481

	利用者数		活動回数		
	年間合計	1カ月平均	年間合計	1カ月平均	1日平均
要介護	507名	42.3名	6,079件	506.6件	16.7件
要支援	481名	40.1名	2,944件	245.3件	8.1件



VIII.居宅介護支援事業

「居宅介護支援事業所 梅本の里」

【令和2年度まとめ】

1. 総評

コロナ禍における訪問の方法、県外家族と接触した利用者のサービス休止期間への対応（実際は出来る事はさほどなく、電話で様子伺いする程度に留まる）、病院や施設の面会制限により利用者の状態把握が困難な状況となる等、本来であれば行える支援と感染予防対応策の間でジレンマを抱えることが多く、ケアマネ業務に大きな影響があった。

又、ケアマネージャーに求められる役割が制度上ソーシャルワーク的要素を多く含むことから、家族がいない、或いは遠方で帰省出来ないなどの場合、関係機関からもケアマネージャーが代わりに対応することを求められる事が多く、様々な対応を余儀なくされたケースも目立った。

感染予防対応策と困難事例に対応する中で見えてきたことは、本人や家族の力に着目し、関わる事業所と連携を図り力を借りながら、冷静かつ客観的にケースを捉える視点の必要性であり、今後、意識していくべき課題の一つである。

ただ、今年度に関して言えば、コロナ禍において時間と労力を費やし、ケースの今後を常に背負いながら、新規依頼も重ねて受けなければならなかった環境で、重圧に心身が持ちこたえられたことが最大の業績と感じている。

2. サービス目標

日々すでに実施している内容を更に充実させることで有用性を高め、負担を増すことなく支援に活かせるよう取り組んだ。具体的に確実に出来ることを目標に掲げたことで、ある程度の形は定着したが、介護報酬制度の改正により令和3年度4月より新たな委員会や取り組みが義務付けられることから、3年の経過期間の中でどう位置付けていくか、検討課題が新たに発生することとなる。

①実践力・経験値の共有：定例会議の充実

担当者を持ち回りとし、各人が議題・内容を準備した上で週1回開催した。

ケアマネージャー月刊誌の中から皆で意見交換する内容を抽出する方法を基本としたことで、具体的な協議が図れ、それぞれが今悩んでいることや興味のあることを取り上げることができた為、議題内容の幅が広がり、より良い効果をもたらした。

②対応力向上：初回面談2名対応の定着

コロナ感染予防対応策の一環として、対応人数が多くならないようにしたことがあり、定着には至っていない。

ただ、業務継続やフォロー体制の観点からも同行訪問機会は必要との意見は部署内から上がっていることから、紙ベースの情報は共有を実施している。

実際に自宅に行き、本人や家族と顔を合わせておくだけでも、いざという時のフォローや事例検討する際の視点に役立つ為、新型コロナウイルスの状況次第となるが次年度も継続した目標としたい。

3. 利用率

介護は9月以降120件台を維持し、支援も概ね目標通りを推移したが、収入額としては目標を達成することができなかった。

又、年度最終目標としていた介護月平均130件の達成も出来ず、悲願としていた黒字化は出来なかった。

コロナ禍で面会や他事業所との連携が制限される中で、非常に目標達成には苦労しところも未達成の要因としている。

令和2年度目標利用率

維持目標 介護125件／月 予防40件／月

到達目標 介護130件／月 予防40件／月

令和2年度利用率

月平均 介護120件／月 予防41件／月

前年度比 月平均介護3件増、支援10件減。

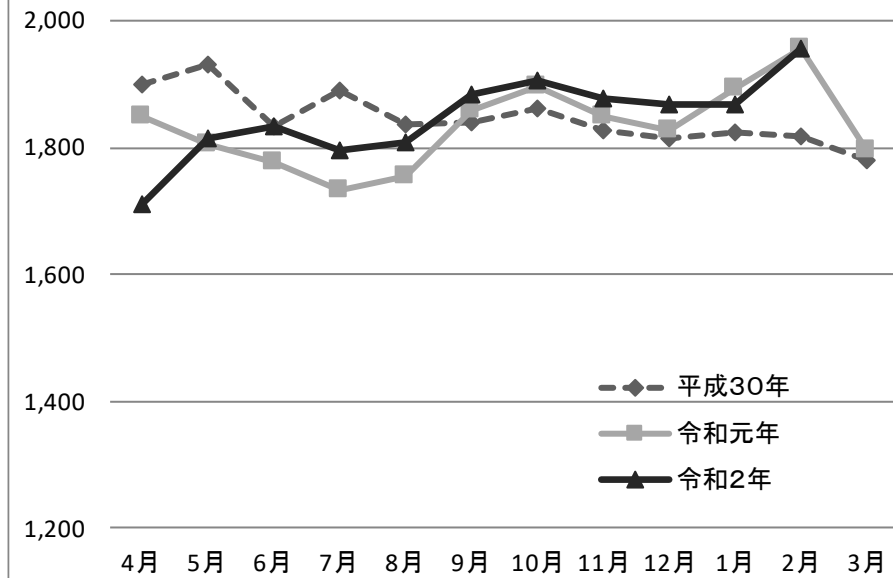
(作成責任者：指定居宅介護支援事業所 梅本の里 管理者 丹下 明子)

1. 利用状況

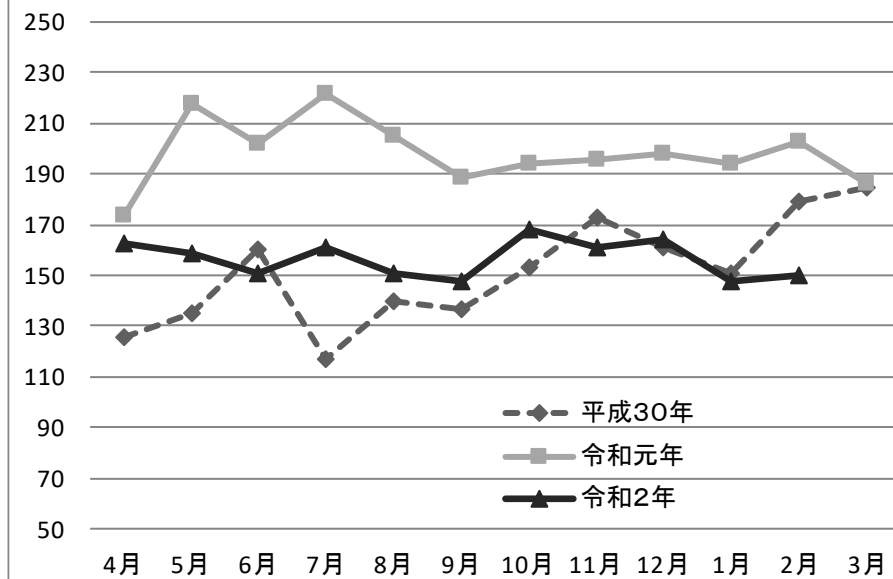
(1) 利用実績表

月	件数	要 介 護 度 別 内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
4	156	24	20	58	28	11	12	3
5	159	25	17	62	27	14	11	3
6	157	25	15	63	27	13	11	3
7	158	26	16	60	27	13	13	3
8	157	26	14	60	28	13	13	3
9	162	25	14	65	28	12	14	4
10	165	27	16	69	29	11	10	3
11	164	26	16	66	30	11	12	3
12	166	27	15	64	33	10	12	5
1	162	26	13	62	34	10	12	5
2	163	25	15	61	34	11	13	4
3	165	24	16	60	34	11	15	5
計	1,934	306	187	750	359	140	148	44

介護報酬推移



介護予防支援委託料



Ⅸ.その他事業活動

事業所内託児所小梅」

【令和 2 年度まとめ】

1. 総評

子ども達の個性を大切に、発達段階に応じた保育や健全な心身の発達など、心豊かな成長を見守った。又、各家庭での生活状況や利用中の状況、育児方針などを共有し、「安心できる居場所」となるよう寄り添う保育の実践をした。

職員が子育てと仕事の両立をサポートできるように、勤務日以外のリフレッシュや一時預かり、短時間勤務など柔軟に対応し、安心して預けられる環境も整えた。

今年度は“コロナ禍”で大変な 1 年であったが、日頃からの体調管理に留意しながら、感染予防対策（消毒・換気等）を徹底し、子ども達も安全に過ごす事ができた。

ただ、地域との交流やふれあいは全くできず、閉鎖的になりがちな環境であったが、感染予防対策を図った上でデイの利用者とのふれあいを実施し、温かい雰囲気の中での保育ができた。

2. 保育目標

一人ひとりの利用状態に応じた年齢別での月間・年間指導計画、個々の日案・週案を立案し、柔軟な保育を実施した。

子ども一人ひとりの個性を大切に、個々の成長に合わせた活発な活動を展開した。
また、子ども達同士の思いやる心を育みながら、良好な関係性を築けた。

3. 利用率

今年度は開所日数 300 日、延利用園児 957 名、1 日平均利用 3.1 名であった。

託児所がある事で育児休暇後の就業復帰や育児中の方の職員採用に繋がり、安心して就業できる環境を提供できている。

ただ、職員の中には居住地で集団保育を希望するケースも多く、全ての職員に対し、役割を果たせてはいない。

安定した利用に繋げる為には、開所時間の見直しや保育士不足の課題が残されている。

（作成責任者：デイサービスセンター小梅所長 稲荷衆一）

2. 松山市高齢者生き生き支援事業

【令和2年度まとめ】

生きがいデイサービス

生きがいデイサービスは、ご利用者の健康と生きがいを支援する目的で行われている事業である。今年度は、10月からデイサービス梅本の里が平井町に移転したこともあり、より身近な地域に根ざした施設の窓口の一つとして欠かせない事業となった。

(1) 利用実績表

月	生きがいデイサービス		
	実人数	延人数	1日平均人数
4	10	41	2.0
5	10	35	1.9
6	12	50	2.3
7	12	39	1.9
8	11	39	2.0
9	12	41	2.1
10	13	51	2.4
11	11	40	2.1
12	10	40	1.7
1	12	43	2.3
2	12	45	2.5
3	12	49	2.1
計	137	513	2.1

3. 高齢者住宅等生活援助員派遣事業

【令和2年度まとめ】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行等もあり、外出等がなかなか困難になっている住民の方々とのコミュニケーションを図りながら、安心して落ち着いた毎日が過ごせるように地域や行政機関等と連携しながらの安否確認に努めた。

(1) 利用実績表

月	生活指導 及び相談	安否確認	一時的な 家事援助	関係機関 との連絡	緊急時の 対応	その他の 業務	計
4	184	232	11	3	4	22	456
5	179	221	11	4	3	18	436
6	219	261	12	2	1	23	518
7	196	232	10	3	2	21	464
8	211	244	8	3	0	21	487
9	195	239	2	2	1	21	460
10	200	250	5	5	0	22	482
11	199	240	3	2	1	20	465
12	222	269	3	2	0	23	519
1	174	213	2	8	1	20	418
2	161	205	3	6	3	19	397
3	221	279	3	5	2	24	534
合計	2,361	2,885	73	45	18	254	5,636

X. その他の活動

1. 施設実習受入状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実習の受入も大幅に減少しているが、普段以上にご利用者との関わり方を理解して頂けるよう丁寧な指導や助言に努めた。又、教える側の職員が成長できるよう、実習生からの積極的な質疑を受け付けるよう心掛け対応をした。

期 間	団体名及び個人名	活動内容	人員
R2. 8. 3～8. 7	松山城南高等学校福祉科	施設実習	2 名
R2. 8. 10～8. 14	松山城南高等学校福祉科	施設実習	2 名
R2. 8. 10～8. 24	松山城南高等学校福祉科	臨時実習	2 名
R2. 8. 17～8. 28	みなら特別支援学校	臨時実習	1 名
R2. 8. 28 9. 4・11・18・25	河原医療福祉専門学校介護福祉科	施設見学	29 名
R2. 8. 24～9. 19	河原医療福祉専門学校介護福祉科	臨時実習	2 名
R2. 11. 9～11. 13	松山城南高等学校福祉科	施設実習	2 名
R2. 11. 9～11. 20	みなら特別支援学校	臨時実習	1 名
R2. 11. 16～11. 20	松山城南高等学校福祉科	施設実習	2 名

合計：延9団体 参加人数： 43名

2. 施設内研修状況（外部講師含む）

今年度は、感染症対策も含め、より身近に起こりうることにに対する研修を令和2年度も力を入れて取り組んでいきたい。

日 時	研 修 名	講師名	対象者	参加者
R2. 8. 3	新型コロナウイルス感染発生！その時どうする？	愛媛県老協	全職員	184 名
R2. 11. 28	新型コロナ対策	株式会社 光洋	各管理者等	15 名

合計：参加人数： 199名

3. ボランティア受入状況

新型コロナウイルス感染症の流行により、ご利用者とボランティアの皆様との交流を図ることができなかったが、時期をみてご利用者の方々が梅本の里で楽しく充実した時間を過ごせるようボランティアの皆様との交流の機会をつくれるよう努力したい。